

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)

第 6 版

文書番号：QT-採取-001

(施行日：2020 年 12 月 1 日)

武蔵野赤十字病院
臨床検査部・輸血部・病理部

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

目 次

1. 検査室の所在地-----	5
2. 検査室連絡先および業務時間-----	6
3. 院内検査項目および容器一覧-----	8
3.1 生化学検査・免疫学検査（血液検体）-----	8
3.1.1 項目一覧-----	8
3.1.2 検査結果に影響を与えることが知られている要因-----	11
3.1.3 容器一覧-----	11
3.2 生化学検査・免疫学検査（尿・透析液検体）-----	12
3.2.1 項目一覧-----	12
3.2.2 容器一覧-----	13
3.3 生化学検査・免疫学検査 （髄液・胸水・腹水・関節液・CAPD 廃液・BAL）-----	13
3.3.1 項目一覧-----	13
3.3.2 容器一覧-----	15
3.4 血液学検査-----	15
3.4.1 項目一覧-----	15
3.4.2 容器一覧-----	17
3.5 尿一般検査-----	17
3.5.1 項目一覧-----	17
3.5.2 容器一覧-----	18
3.6 輸血部-----	19
3.6.1 項目一覧-----	19
3.6.2 容器一覧-----	19
3.7 微生物検査-----	20
3.7.1 項目一覧-----	20
3.7.2 材料別項目一覧-----	21
3.7.3 容器一覧-----	22
3.8 病理部-----	25
3.8.1 項目一覧-----	25
3.8.2 容器一覧-----	27
3.9 生理機能検査-----	29

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.9.1	項目一覧-----	29
4.	夜勤休日日勤検査項目一覧-----	31
5.	検査依頼-----	32
5.1	検体検査・微生物検査依頼-----	32
5.2	生理機能検査依頼-----	32
5.3	病理部検査依頼-----	32
6.	採取ラベル内容-----	40
7.	検査を受けるための患者の準備-----	41
7.1	採血及び各種検体検査の準備-----	41
7.1.1	採血・尿等の検査 (生化学・免疫血清・血液・一般・輸血) -----	41
7.1.2	喀痰の検査(微生物・病理) -----	41
7.1.3	尿・体腔液等の検査(病理) -----	41
7.2	生理機能検査の準備-----	41
7.2.1	生理機能検査を受ける患者の準備-----	41
7.2.2	生理機能検査を受ける患者の注意点・中止条件-----	41
8.	検体採取手順-----	45
8.1	外来検体の準備-----	45
8.2	病棟検体の準備-----	45
8.3	検体採取方法-----	45
8.3.1	血液採取-----	45
8.3.2	尿採取-----	50
8.3.3	便採取(便潜血) -----	50
8.3.4	微生物検体採取-----	51
8.3.5	病理検体採取-----	51
9.	検体搬送手順-----	54
10.	検体受付手順-----	54
10.1	受付場所-----	54
10.2	検体受入不可基準-----	54
11.	追加検査の依頼手順(検体の保存期間、検体の安定性、保存方法)	55
12.	各種申請手続き-----	58
13.	アドバイスサービスの案内-----	58
14.	パニック値報告手順-----	58
14.1	血液検査パニック値-----	58
14.2	微生物検査パニック値-----	59

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

14.3 病理部パニック値報告手順-----	60
14.4 生理機能検査パニック値-----	61
15. 個人情報の保護に関する検査室の方針-----	62
16. 検査室の苦情処理手順-----	62
17. 関連文書-----	62

※取扱い上の注意および特殊な保管条件がある場合は、各検査の項目一覧に記載しております。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

1. 検査室の所在地

武蔵野赤十字病院

臨床検査部・輸血部・病理部

〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1

電話番号 0422-32-3111（内線5561）検体受付

外注委託先として

株式会社 エスアールエル

多摩営業所 〒191-0002 東京都日野市新町5-4-2 電話番号042-586-4415

八王子ラボラトリー 〒192-8535 東京都八王子市小宮町51

データインフォメーション 電話番号042-646-5911

株式会社 LSIメディエンス

多摩営業所 〒191-0011 東京都日野市日野本町3-10-3 電話番号042-589-2411

中央総合ラボラトリー 〒174-8555 東京都板橋区志村3-30-1

インフォメーションセンター 電話番号03-5994-2111

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

2. 検査室連絡先および業務時間

検査項目、検査結果、検査容器など、検査に関する問合せや要望・苦情は下記の担当部署に連絡して下さい。

平日 日常業務時間 8:30～17:00

平日 時間外(夜間) 17:00～翌 8:30

休日 24 時間対応

※平日時間外、休日は、時間外検査項目のみの対応となります。

外注検査の問い合わせについては平日 日常業務時間 8:30～17:00 の対応となります。

駐在員不在時の場合は下記の営業所に直接お問い合わせいただくか、

「SRL総合検査案内(様式番号:EX-外注-001)」および「LSIメディエンス総合検査案内(様式番号:EX-外注-002)」をご参照下さい。

エスアールエル 多摩営業所 042-586-4415

LSIメディエンス 多摩営業所 042-589-2411

検査室	内線番号	場 所	業務内容
検体受付 平日時間内	5561	2F 臨床検査部 検体受付	検体受付
生化学検査	5249	2F 臨床検査部 生化学検査室	生化学検査、CRP、血中薬物濃度、 免疫グロブリン、IL-2 レセプター
免疫学検査	5263	2F 臨床検査部 免疫学検査室	感染症検査、腫瘍マーカー、 甲状腺機能検査、HbA1c など
血液学検査	5259	2F 臨床検査部 血液学検査室	血算、血液像、骨髓像、血沈 凝固・線溶検査、
尿一般検査	5262	2F 臨床検査部 尿 一 般 検 査 室	尿一般検査、便検査、穿刺液検査
輸血部	5260	2F 臨床検査部内 輸血部	血液型、輸血関連
微生物検査	5264 5223	2F 臨床検査部 微生物検査室	微生物検査、抗酸菌検査 迅速抗原検査
病理部	5265 5563	2F 病理部	細胞診、組織診断、解剖

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

生理機能検査	6207 6208	2F 生理機能検査 室	心電図検査、負荷心電図 肺機能検査、脳波、超音波検査、筋 電図検査、聴覚検査
外注検査受付	SRL 5267 LSI 5246	2F 臨床検査部内	外注検査の検体受付など
夜勤・休日日勤検 査業務受付 (17:00～翌 8:30、 休日)	PHS 8653	2F 臨床検査部 生化学検査室	検体受付、保存 夜勤休日日勤検査項目

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3. 院内検査項目および容器一覧

3.1 生化学検査・免疫学検査（血液検体）

3.1.1 項目一覧

検査項目	検体量 (ml)	検査 材料	採取 容器	検査方法	生物学的 基準範囲	単位	所要 時間※	備考
TP	7.0	血清	1・急	ビウレット法	6.6～8.1	g/dL	60 分	溶↑ 黄↓
ALB		血清	1・急	BCP 改良法	4.1～5.1	g/dL		
トランスフェリン		血清	1・急	免疫比濁法	男 23～42 女 22～34	mg/dL		
LD		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	124～222	U/L		溶↑
AST		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	13～30	U/L		溶↑
ALT		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	男 10～42 女 7～23	U/L		
TB		血清	1・急	化学酸化法	0.4～1.5	mg/dL		
DB		血清	1・急	化学酸化法	0.0～0.4	mg/dL		溶↓
γGT		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	男 13～64 女 9～32	U/L		
ALP		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	106～322	U/L		
ChE		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	男 240～486 女 201～421	U/L		
NH3	2.0	血漿	5	酵素法	12～66	μg/dL	40 分	溶↑ 採血後 即提出
UN	7.0	血清	1・急	ウリアゼ UV 法	8～20	mg/dL	60 分	
CRE		血清	1・急	酵素法	男 0.65～1.07 女 0.46～0.79	mg/dL		
UA		血清	1・急	ウリカーゼ・ヘパロキシダーゼ 法	男 3.7～7.8 女 2.6～5.5	mg/dL		
Na		血清	1・急	イオン選択電極法	138～145	mmol/L		
K		血清	1・急	イオン選択電極法	3.6～4.8	mmol/L		溶↑
Cl		血清	1・急	イオン選択電極法	101～108	mmol/L		
Na(ヘパリン血)	5.0	血漿	G	イオン選択電極法	138～145	mmol/L		
K(ヘパリン血)		血漿	G	イオン選択電極法	3.6～4.8	mmol/L		溶↑
Cl(ヘパリン血)		血漿	G	イオン選択電極法	101～108	mmol/L		
Ca	7.0	血清	1・急	酵素法	8.8～10.1	mg/dL		
IP		血清	1・急	酵素法	2.7～4.6	mg/dL		
Mg		血清	1・急	キシリジブルー法	1.8～2.4	mg/dL		溶↑
TC		血清	1・急	コレステロール酸化酵素法	142～248	mg/dL		
HDL-C		血清	1・急	直接法	男 38～90 女 48～103	mg/dL		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

LDL-C		血清	1・急	直接法	65～163	mg/dL		
TG		血清	1・急	酵素法 (遊離ガリセロール消去法)	男 40～234 女 30～117	mg/dL		
AMY		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	44～132	U/L		溶↓
P-AMY		血清	1・急	免疫阻害法	16～52	U/L		溶↓
CK		血清	1・急	JSCC 標準化対応法	男 59～248 女 41～153	U/L		
CK-MB		血清	1・急	免疫阻害法	～12	U/L		
Fe		血清	1・急	ミトロツ・PSAP 法	40～188	μg/dL	60 分	溶↑
UIBC	7.0	血清	1・急	ミトロツ・PSAP 法	男 81～353 女 126～388	μg/dL		
TIBC		血清	1・急	Fe+UIBC で算出	150～500	μg/dL		
フェリチン		血清	1・急	ラテックス凝集比濁法	男 22.5～233 女 7.9～75.3	ng/mL		
ミクログロブリン		血清	1・急	ラテックス凝集比濁法	70 以下	ng/mL		
GLU		血清	1・急	HK・G-6-PDH 法	73～109	mg/dL		※1※2
HbA1c	2.0	血液	4	HPLC 法	4.9～6.0	%(NGSP)	40 分	
グリコアルブミン	7.0	血清	1・急	酵素法	11～16	%		
高感度トロポニン I		血漿	3	CLIA	26.2 以下	pg/mL		
BNP	3.0	血漿	3	CLIA	18.4 以下	pg/mL	60 分	溶 採血後 即提出
亜鉛		血清	1・急	比色法	80～130	μg/dL		
シスタチン C	7.0	血清	1・急	ラテックス凝集比濁法	0.4～0.9	mg/L		
毛細管ビリルビン	0.1	血漿	10	毛細管法		mg/dL	40 分	
B-OSM				氷点降下法	275～290	mOSM/L		
CRP				ラテックス凝集比濁法	0.14 以下	mg/dL		
ASLO				ラテックス凝集比濁法	239 以下	IU/mL		
RF				ラテックス凝集比濁法	15 以下	IU/mL		
IgG				免疫比濁法	861～1747	mg/dL		
IgA				免疫比濁法	93～393	mg/dL		
IgM	7.0	血清	1・急	免疫比濁法	男 33～183 女 50～269	mg/dL	60 分	
C3				免疫比濁法	73～138	mg/dL		
C4				免疫比濁法	11～31	mg/dL		
KL-6				ラテックス凝集比濁法	500 未満	U/mL		
sIL-2R				ラテックス凝集比濁法	122～496	U/mL		
M2BPGi				CLEIA	1.00 未満	COI		
FT3	7.0	血清	1・急	CLIA	1.88～3.18	pg/mL	90 分	

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

FT4				CLIA	0.70～1.48	ng/dL		
TSH				CLIA	0.35～4.94	μIU/mL		
インスリン				CLIA	5～10	μU/mL		※
C-ペプチド				CLIA	血清 0.78～5.19 (絶食時)	ng/mL		
コルチゾール				CLIA	血清 3.7～19.4	μg/dL		
FSH				CLIA		mIU/mL		
LH				CLIA		mIU/mL		
エストラジオール(E2)				CLIA		pg/mL		※3
HCG	7.0	血清	1・急	CLEIA	5 未満	mIU/mL	60 分	
ジゴキシン				CLIA	0.8～2.0	ng/mL		
カルバマゼピン				CLIA	4.0～12.0	μg/mL		
バルプロ酸				CLIA	50.0～100.0	μg/mL		
パソマイシン	7.0	血清	2	CLIA	5～10 (トラフ値)	μg/mL	60 分	
テオフィリン				CLIA	10.0～20.0	μg/mL		
フェニトイン				CLIA	10.0～20.0	μg/mL		
フェノバルビタール				CLIA	15.0～40.0	μg/mL		
シクロスポリン	3.0	血液	8	CLIA		ng/mL	100 分	
タクロリムス				CLIA		ng/mL		
AFP				CLIA	10 未満	ng/mL		
CEA				CLIA	5 以下	ng/mL		
CA19-9				CLIA	37 以下	U/mL	90 分	
CA125				CLIA	35 以下	U/mL		
PSA				CLIA	4 以下	ng/mL		
PIVKA-II				CLEIA	40 以下	mAU/mL		
梅毒 RPR	7.0	血清	1・急	ラテックス凝集比濁法	1.0 未満	RU	60 分	
TPLA 定性				ラテックス凝集比濁法	0.5 未満	COI		
HBs 抗原				CLIA	0.05 未満	IU/mL		
HBs 抗体				CLIA	10.0 未満	mIU/mL		
HBc 抗体				CLIA	1.00 未満	S/CO	90 分	
HCV 抗体				CLIA	1.00 未満	S/CO		
HCV コア抗原				CLIA	3.00 未満	fmol/L		
HIV 抗原/抗体				CLIA	1.00 未満	S/CO		

※所要時間は採血終了時～結果報告（外来時）の時間です。

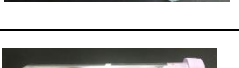
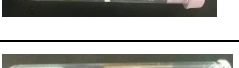
武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.1.2 検査結果に影響を与えることが知られている要因

図表中の備考欄に記載されております 等は、検査結果に影響を与える要因になります。検査結果に溶血、乳び、黄疸の情報が付記されている場合は結果を解釈にご注意頂くようお願いいたします。

	溶血により偽高値		溶血により偽低値
	溶血は原則測定不可		黄疸により偽低値
※1	プラリドキシムヨウ化メチル（PAM）（金属解毒薬）を投与中の患者において偽高値を示す可能性あり。		
※2	採血後、遠心せずに全血放置をした場合 1 時間あたり 3%～5%程の値の低下が見られることから、採血後すみやかに提出すること。また、解糖作用は全血放置 30 分後くらいから影響があると言われている。		
※3	薬剤ミフェプリストン（日本で未承認の経口妊娠中絶薬）を服用してから 2 週間以内の患者において偽高値を示す可能性あり。		

3.1.3 容器一覧

容器 No.	容器	蓋の色	容器名称	検査材料	備考
1		茶	凝固促進剤・ 分離剤入り採血管	血清	凝固促進剤が入っておりますので、採血後、穏やかに転倒混和して下さい。
1		黄	分離剤入り マイクロティナ	血清	新生児用の血液採取容器です。
急		ピンク	凝固促進剤・ 分離剤入り採血管+トロンビン	血清	急速凝血管です。 凝固促進剤が入っておりますので、採血後、穏やかに転倒混和して下さい。
2		茶	凝固促進剤入り 分離剤無し採血管	血清	凝固促進剤が入っておりますので、採血後、穏やかに転倒混和して下さい。
3		薄 ピンク	EDTA-2K 入り 真空採血量	血漿	血液 3.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
4		紫	EDTA-2K 入り 真空採血量	血液	血液 2.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
5		青	EDTA-2K 入り 真空採血量	血漿	血液 2.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
8		薄紫	EDTA-2K 入り 真空採血量	血液	血液 3.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
10	 	なし	ヘパリン入り毛細管	血漿	ヘパリン入り毛細管に血液を採取し、片側をバテでしっかり封して提出して下さい。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.2 生化学検査・免疫学検査（尿・透析液検体）

3.2.1 項目一覧

検査項目	検体量 (ml)	検査 材料	採取 容器	検査方法	生物学的 基準範囲	単位	所要 時間※	備考
TP	3.0	尿 蓄尿 透析液	11	PR 法	蓄尿 30～120	尿・透析液 mg/dL 蓄尿 mg/day	60 分	
ALB		尿	11	免疫比濁法	蓄尿 30 未満	尿・透析液 mg/L 蓄尿 mg/day		
UN		尿 蓄尿 透析液	11	ウレアゼ UV 法		mg/dL		
CRE		尿 蓄尿 透析液	11	酵素法		mg/dL		
Na		尿 蓄尿 透析液	11	イオン選択電極法	蓄尿 70～250	mmol/L 蓄尿 mmol/L /day		
K		尿 蓄尿 透析液	11	イオン選択電極法	蓄尿 25～100	mmol/L 蓄尿 mmol/L /day		
Cl		尿 蓄尿 透析液	11	イオン選択電極法	蓄尿 70～250	mmol/L 蓄尿 mmol/L /day		
Ca		尿 蓄尿 透析液	11	酵素法		mg/dL		
AMY		尿 蓄尿 透析液	11	JSCC 標準化対応法	随時尿 50～500	U/L		
P-AMY		尿 蓄尿 透析液	11	免疫阻害法	随時尿 12～425	U/L		
GLU		尿 蓄尿 透析液	11	HK・G-6-PDH 法	蓄尿 40～85	尿 mg/dL 蓄尿 mg/day		
U-OSM		尿 蓄尿	11	氷点降下法	50～1300	mOSM/L		
妊娠反応		尿	11	免疫カマトグラフィー法			40 分	

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

C-ペプト	蓄尿	12	CLIA	畜尿（絶食時） 23.74 ～206.96	蓄尿 μg/day	90 分	要安定化剤
コルチゾール	尿 蓄尿	11	CLIA	畜尿 4.3～176.0	尿 μg/dL 蓄尿 μg/day		

※所要時間は検体到着～結果報告の時間です。

3.2.2 容器一覧

容器 No.	容器	蓋の色	容器名称	検査材料	備考
11		黄	ポリスピッツ	尿・蓄尿 透析液	滅菌されておりません。
12		青	滅菌中試験管	蓄尿	C-ペプト用に蓄尿する場合は、蓄尿用の瓶に安定化剤を先に入れてください。

3.3 生化学検査・免疫学検査（髄液・胸水・腹水・心嚢水・関節液・CAPD 廃液・BAL）

3.3.1 項目一覧

検査項目	検体量 (ml)	検査 材料	採取 容器	検査方法	生物学的 基準範囲	単位	所要 時間※	備考
TP	3.0	髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD その他	11 12 20	ビュレット法 PR 法	髄液 8～48	体腔液 関節液 その他 g/dL 髄液 BAL CAPD mg/day	60 分	
ALB		胸水 腹水 心嚢水 その他	12	BCP 改良法		g/ dL		
LD		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD DPL その他	11 12 18 20	JSCC 標準化対応法		IU/L		
Cl		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液	11 12 18 20	イオン選択電極法	髄液 120～130	mmol/L		

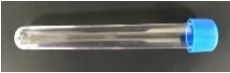
武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

		BAL CAPD その他						
GLU	3.0	髄液 胸水 腹水 心嚢水 BAL 洗浄液 CAPD その他	11 12 18 20	HK・G-6-PDH 法	髄液 50～75	mg/dL		
AMY		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD その他	11 12 18 20	JSCC 標準化対応法		IU/L		
P-AMY		胸水 腹水 BAL その他	12 18	免疫阻害法		IU/L		
IgG		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD その他	11 12 18	免疫比濁法		mg/dL	60 分	
IgA		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD その他	11 12 18	免疫比濁法		mg/dL		
IgM		髄液 胸水 腹水 心嚢水 関節液 BAL CAPD その他	11 12 18	免疫比濁法		mg/dL		

※所要時間は検体到着～結果報告の時間です。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.3.2 容器一覧

容器 No.	容器	蓋の色	容器名称	検査材料	備考
11		黄	ポリスピット	CAPD DPL	
12		青	滅菌中試験管	胸水 腹水 心嚢水 関節液	
18		白	滅菌ポリスピット	BAL	
20		白	滅菌ポリスピット	髄液	細菌検査も有る場合は、一般、生化学、 病理の容器と区別して提出する。

3.4 血液学検査

3.4.1 項目一覧

検査項目		検体量 (ml)	検査 材料	採取 容器	検査方法	生物学的 基準範囲	単位	所要 時間※	備考
血算・血小板数	白血球数 (WBC)	2.0	血液	4	半導体レーザーによる FCM 法	3.3～8.6	10 ³ /μL	40 分	
	赤血球数 (RBC)				シスフロー DC 検出法	男 4.35～5.55 女 3.86～4.92	10 ⁶ /μL		
	血色素濃度 (Hb)				SLS-ヘモグロビン法	男 13.7～16.8 女 11.6～14.8	g/dL		
	ヘマトクリット (Ht)				赤血球ハルス波高値 検出法	男 40.7～50.1 女 35.1～44.4	%		
	MCV				RBC と HCT より 算出	83.6～98.2	fL		
	MCH				RBC と Hb より 算出	27.5～33.2	pg		
	MCHC				Ht と Hb より算出	31.7～35.3	g/dL		
	血小板数 (PLT)				シスフロー DC 検出法	158～348	10 ³ /μL		
血小板数 (ケエン酸)		1.8	血液	7	シスフロー DC 検出法		10 ⁴ /μL	40 分	EDTA による 血小板 凝集時
網状赤血球		2.0	血液	4	半導体レーザーによる FCM 法	0.8～2.2	%	40 分	
血沈 (1 時間値)		1.6	血液	9	ウェスターグレン法	男 2～10 女 3～15	mm/h	90 分	
血液 像	好中球杆状核球	2.0	血液	4	(自動機械法) 半導体レーザーによる FCM 法	0.5～6.5	%	90 分	
	好中球分葉核球					38.0～74.0	%		
	好酸球					0.0～8.5	%		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

	好塩基球				(鏡検法) MG 染色の上、 目視	0.0～2.5	%		
	リンパ球					16.5～49.5	%		
	単球					2.0～10.0	%		
時間外血液像（機械値）		2.0	血液	4	半導体レーザーによる FCM 法		%	40 分	
骨髓像		0.5	骨髓液	他	MG 染色による 鏡検法		%	1-2 日	
アルカリフォスファターゼ染色		0.5	血液 骨髓液	4 他	朝長法			1-2 日	
ペルオキシダーゼ染色		0.5	血液 骨髓液	4 他	α-naphtol 法			当日	
エステラーゼ染色		0.5	血液 骨髓液	4 他				1-2 日	
PAS 染色		0.5	骨髓液	他				1-2 日	
鉄染色		0.5	骨髓液	他	ベルリン青法			1-2 日	
マラリア原虫		0.5	血液	4	MG 染色による 鏡検法			当日	
赤血球抵抗試験		2.0	血液	4	Parpart 法			当日	要予約
Ham 試験		1.0	血液	4				当日	要予約
Sugar Water 試験		2.0	血液	4				当日	要予約
APT 試験		0.1	血液	他				当日	
出血時間					Duke 法	2～5	分	当日	
PT		1.8	血漿	7	凝固時間法	70～120 (12～16)	% (秒)	60 分	
APTT				7	凝固時間法	26.0～36.0	秒	60 分	
フィブリノゲン				7	凝固時間法	200～400	mg/dL	60 分	
ATⅢ				7	比色法 OD/分	80～120	%	60 分	
D-ダイマー				7	2point イムノ法	0.5 未満	μg/mL	60 分	
血中 FDP				7	2point イムノ法	5.0 未満	μg/mL	60 分	
混合試験 (クロスミキシング)		4.5	血漿	L	凝固時間法			当日	要予約

※所要時間は採血終了時～結果報告（外来時）の時間です。

※血液像における所要時間は至急のコメントまたは電話連絡時の時間です。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.4.2 容器一覧

容器 No	容器	蓋の色	容器名称	検査材料	備考
4		紫	EDTA-2K 入り 真空採血量	血液	血液 2.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
4		紫	EDTA-2K 入り マイクロティナ	血液	新生児用の血液採取容器です。
7		黒	3.2%クエン酸ナトリウム入り真空採血量	血漿	血液 1.8ml (白線まで) 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
9		橙	3.2%クエン酸ナトリウム入り真空採血量	血液	血液 1.6ml (白線まで) 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
他		なし	EDTA-2K 入り マイクロティナ	骨髓液	凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
L		黒	3.2%クエン酸ナトリウム入り真空採血量	血漿	血液 4.5ml (黒線まで) 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。

3.5 尿一般検査

3.5.1 項目一覧

	検査項目	検体量	検査材料	採取容器	検査方法	生物学的基準範囲	単位	所要時間※	備考
尿定性	比重	10ml	尿	11 12	屈折率法	1.005～1.030		45 分	
	pH				試験紙法	4.5～7.5			
	蛋白					(一)			
	糖								
	潜血								
	ケトン								
	亜硝酸塩								
	白血球								
	ビリルビン					(±)			
	ウロビリノーゲン								
尿沈渣					フローサイトメリー法 鏡検法				

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

便潜血			便	19	免疫比濁法	(一)		60 分	
便虫卵		1～2 g	便	19	塗抹法	(一)		30 分	
蟯虫卵				他	セロハンテープ 検肛法	(一)		30 分	
原虫検査			便	19	コーン染色	(一)		180 分	
便中白血球数			便	19	薄層塗抹法	(一)		30 分	
喀痰-好酸球			喀痰	14	Diff-Quik 染色	(一)		60 分	
髄液	外観	1ml	髄液	20	目視			30 分	
	比重				屈折計法				
	細胞数				計算盤	5 以下	/μL		
	細胞種類								
穿刺液	外観	5ml	穿 刺 液	12	目視			60 分	
	比重				屈折計法				
	細胞数				計算盤				
	細胞種類								
関節液結晶検査		10ml	関 節 液	20	偏光顕微鏡による 鏡検法			60 分	

※尿定性・尿沈渣の所要時間は採尿時（採血室にて採尿した場合）～結果報告の時間です。

※糞便・喀痰・穿刺液等の所要時間は検体到着～結果報告の時間です。

3.5.2 容器一覧

容器 No.	容器	蓋の色	容器名称	検査材料	備考
11		黄	ポリスピッツ	尿	
12		青	滅菌中試験管	尿 穿刺液	
14		黄	滅菌カップ	喀痰	カップ 1 つにオーダーラベルを全て貼る。
19		緑	便カップ	便	
20		白	滅菌ポリスピッツ	髄液	細菌検査も有る場合は、一般、生化学、 病理の容器と区別して提出する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.6 輸血部

3.6.1 項目一覧

検査項目	検体量 (ml)	検査 材料	採取 容器	検査方法	生物学的 基準範囲	単位	所要 時間※	備考
ABO 血液型	5.0	全血	ユ	カラム凝集法	A 型、B 型 O 型、AB 型		60 分	
Rh(D)血液型				カラム凝集法	D 陽性 D 陰性			
Rh5 因子				試験管法	陽性、陰性			
間接クームス				カラム凝集法	陰性		90 分	
直接クームス				試験管法	陰性		60 分	
抗 A 抗 B 抗体価		血漿	ユ	試験管法		倍	180 分	

※所要時間は採血終了時～結果報告（外来時）の時間です（単一検査の場合）。

※同時に複数の項目を検査をする場合は、所要時間が長い方の検査の時間となります。

※血液型が判定困難な場合や、間接クームスおよび直接クームス陽性時は精査が必要なため、時間を要することがあります。

3.6.2 容器一覧

容器 No.	容器	蓋の色	容器名称	検 査 材 料	備考
ユ		黄	EDTA-2K 入り真空採血管	血液	血液 5.0ml 採血し、凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.7 微生物検査

3.7.1 項目一覧

検査項目	検査方法	所要時間※	備考
グラム染色	Bartholomew & Mittwer の変法	30～45 分	・液体検体は遠心 15 分が必要
墨汁染色	墨汁による陰性染色	30～40 分	・液体検体は遠心 15 分が必要
蛍光染色	トラント液による蛍光法	45～60 分	・液体検体は遠心 15 分が必要
チール・ネルゼン染色	チール・ネルゼン染色	45～60 分	・液体検体は遠心 15 分が必要
デイクイック染色	デイクイック液による染色	45～60 分	・液体検体は遠心 15 分が必要
一般細菌真菌培養・同定		2～7 日	菌の発育状況でさらに日数を要する 場合がある。
一般細菌薬剤感受性試験	微量液体希釈法 1 濃度ディスク法 E test による測定法	1～2 日	・菌の発育状況で検査方法に変更あり。 ・全ての薬剤には対応していない。 ・菌種によっては設定がないものあり。
嫌気性菌培養		3～14 日	菌の発育状況でさらに日数を要する 場合がある。
インフルエンザウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
RSウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
ヒトメタニューモウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
アデノウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
A 群溶連菌	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
尿中肺炎球菌抗原	イムノクロマト法	20～30 分	
尿中レジオネラ抗原	イムノクロマト法	20～30 分	
CD トキシン	イムノクロマト法	50～60 分	・カルチャースワブでの検査不可
便中アデノウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可
ロタウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可 ・小児のみ
ノロウイルス抗原	イムノクロマト法	20～30 分	・カルチャースワブでの検査不可 ・ICT に申請をしてから依頼する。
真菌薬剤感受性試験	SRL 検査案内書参照		
嫌気性菌同定	SRL 検査案内書参照		
嫌気性菌薬剤感受性試験	SRL 検査案内書参照		
抗酸菌 PCR	SRL 検査案内書参照		・カルチャースワブでの検査不可
抗酸菌培養	SRL 検査案内書参照		
抗酸菌同定	SRL 検査案内書参照		
抗酸菌薬剤感受性試験	SRL 検査案内書参照		

※ 所要時間は検体受付～結果報告までの時間です。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.7.2 材料別項目一覧

検査項目	血液	喀痰	BAL・気管支洗浄液	咽頭・扁桃ぬぐい液	鼻咽腔	胃液	糞便	尿	尿道分泌物	腔分泌物	穿刺液	脳脊髄液	開放膿	閉鎖性膿	カテーテル類先端	組織	その他
グラム染色	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●		▲	▲
墨汁染色											▲	●					
蛍光染色		●	●			●		●			●	●	●	●		▲	▲
チール・ネルゼン染色		●	●			●		●			●	●	●	●		▲	▲
ディフクイック染色			●														
一般細菌培養・同定	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲
一般細菌薬剤感受性試験	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲
インフルエンザ [※] 抗原					●												
RSウイルス抗原					●												
ヒトメタニューモウイルス抗原					●												
アデノウイルス抗原				●													
A 群溶連菌				●													
尿中肺炎球菌抗原								●									
尿中レジオネラ抗原								●									
CDトキシン							●										
便中アデノウイルス抗原							●										
ロタウイルス抗原							●										
ノロウイルス抗原							●										
真菌培養・同定	●	●	●	●		○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲
真菌薬剤感受性試験	●	●	●	●		○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲
嫌気性菌培養・同定	●									○	●	●		●		●	▲
嫌気性菌薬剤感受性試験	●									○	●	●		●		●	▲
抗酸菌PCR	●	●	●			●	●	●			●	●	▲	▲		●	▲
抗酸菌培養	●	●	●	●		●	●	●			●	●	●	●		●	▲
抗酸菌同定	●	●	●	●		●	●	●			●	●	●	●		●	▲
抗酸菌薬剤感受性試験	●	●	●	●		●	●	●			●	●	●	●		●	▲

●：検査可能、▲：材料によっては検査不可 ○：検査可能だが不適切材料

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.7.3 容器一覧

容器 No.	容器	検査材料	必要量	備考
17	 血液培養ボトル	血液	1 本当たり 8～10mL	・ゴムキャップはヨードかアル綿で消毒する。 ・接種後、直ちに 2、3 回転倒混和する。 ・ボトルのバーコードの上に検体ラベルは貼らない。 ・採取後、直ちに検査室に提出する。 ・別部位から 24 時間以内に 2 セット採取する。 ・感染性心内膜炎疑いの場合は 3 セット採取する。 ・CRBSI 診断目的以外、カテーテルから採取しない。 ・CRBSI 疑いの場合は、末梢から 2 セット、カテから 1 セット採取する。 ・抗酸菌用ボトルは微生物室に取りに来る。 ・冷蔵禁止。
	 小児用ボトル		1 本当たり 1～3mL	
	 マイコ F ボトル		1 本当たり 8～10mL	
20	 滅菌ポリスピッツ (白)	脳脊髄液	一般細菌： 1mL 以上 抗酸菌： 1mL 以上	・皮膚常在菌の混入を避ける。 ・抗凝固剤は使用しない。 ・検査が複数分野ある場合は数本採取する。 ・採取後は直ちに検査室に提出する。 ・室温保存。
14	 滅菌カップ (黄)	喀痰	一般細菌： 1mL 以上 抗酸菌： 1mL 以上 カリニ： 1mL 以上	・唾液や食物残渣の混入を避ける。 ・ティッシュやラップで採取しない。 ・キャップはきちんと閉める。 ・乾燥した検体では検査できない。
		組織など	一般細菌： 適宜 抗酸菌： 適宜	・乾燥防止の為、滅菌生食を約 0.5mL 入れる。 ・嫌気性菌を疑う場合は、嫌気ポーターを使用する。 ・大きな検体は細断したものを数個入れる。
他	 滅菌ポリスピッツ (青)	吸引痰	一般細菌： 1mL 以上 抗酸菌： 1mL 以上 カリニ： 1mL 以上	・キャップはきちんと閉める。 ・吸引チューブは極力外し、キャップする。
18	 滅菌ポリスピッツ (白)	BAL 気管支洗浄 液	一般細菌： 2mL 以上 抗酸菌： 2mL 以上 カリニ： 2mL 以上	・容器に材料名、患者名を記入する。 ・キャップはきちんと閉める。
		胃液	抗酸菌： 1mL 以上	・通常一般培養には適さない。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

27	 滅菌カップ (赤)	尿	一般細菌： 1mL 以上 抗酸菌： 10mL 以上 尿中抗原： 2mL 以上	- 膀胱炎、腎盂腎炎を疑う場合は中間尿を採取する。 - 淋菌、クラミジア尿道炎を疑う場合 (男性)、前回の排尿から 2 時間以上経過後、最初の 10～20mL を採取する。 - 膀胱カテ尿は採取ポートをアル綿で消毒後、注射器で穿刺して採取する。 - 女性は滅菌生食と清浄綿で尿道口、外陰部を清拭後に採取する。 - 乳幼児では採尿パックの使用が可能である（常在菌混入の可能性あり）。 - 蓄尿は培養に用いない。 - キャップはきちんと閉める。
19	 スクリューキャップ 緑サジ付き	便	一般細菌： 2mL 以上 または 拇指頭大 抗酸菌： 2mL 以上 または 拇指頭大	- 尿や水道水の混入を避ける。 - 赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫など原虫を疑う場合は、採取後直ちに検査室に提出する（夜間・休日は受付不可）。 - 糞線虫を疑う場合は微生物室に連絡する。 - 目的菌がある場合は微生物室に連絡する。
16	 カルチャースワブ オレンジ	鼻咽腔 耳漏等 眼脂等 尿道分泌物 その他	一般細菌： 1 本	- アカンソアメーバを疑う場合は事前に微生物室に連絡する。 - 淋菌が疑われる場合は、採取後直ちに微生物室に提出する。 - スワブ検体は抗酸菌検査に適さない。 (抗酸菌検査が必要な場合は単独で 1 本必要となる)。
15	 カルチャースワブ青	咽頭・扁桃拭い液 膈分泌物等 開放膿 その他	一般細菌： 1 本	- 膿は表面を除去し、深部の膿を採取する。 - スワブ検体は抗酸菌検査に適さない。 (抗酸菌検査が必要な場合は単独で 1 本必要となる)。
他	 滅菌中試験管 (青)	穿刺液	一般細菌： 1mL 以上 抗酸菌： 10mL 以上	- 閉鎖性膿は注射器で穿刺するか切開し、膿瘍内壁付近から採取する。 - 嫌気性菌を疑い場合は、嫌気ポーターを使用する。
他	 滅菌中試験管 (青)	膿 カテーテル類	一般細菌： 適宜 抗酸菌： 適宜 一般細菌： 先端約 5cm	- 閉鎖性膿は注射器で穿刺するか切開し、膿瘍内壁付近から採取する。 - 嫌気性菌を疑い場合は、嫌気ポーターを使用する。 ・乾燥防止のため滅菌生食 0.5mL を入れる。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

他	 シードチューブ (嫌気ポーター)	閉鎖性膿 穿刺液 組織等	一般細菌： 適宜 抗酸菌： 適宜	- 嫌気性菌を疑う場合に使用する。 - 使用時は微生物室に取りに来る。 - 採取時はゴム栓を消毒し、注射針を刺して注入する。 - ゴム栓を外して入れる場合は、素早く検体を入れゴム栓を閉める。 - 培地表面が青く変色したものは使用不可。
12	 EXスワブ002	鼻咽腔 鼻汁	1 本	- インフルエンザウイルス抗原検査用 - RS ウイルス抗原検査用 ※インフルエンザとRSは1本で検査可能 - ヒトメタニューモウイルス抗原検査用
12	 FLOQスワブ			- インフルエンザウイルス抗原検査用 - RS ウイルス抗原検査用 ※インフルエンザとRSは1本で両方の検査可能 - ヒトメタニューモウイルス抗原検査用
12	 EXスワブ001	咽頭・扁桃 拭い液	1 本	アデノウイルス抗原検査用
12	 A群溶レン菌用スワブ	咽頭・扁桃 拭い液	1 本	A 群溶レン菌検査用

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.8 病理部

3.8.1 項目一覧

(1) 組織診断検査

検査項目	提出材料	容器名称	保存	所要日数※	検査方法
病理診断	組織検体 (手術検体)	大タッパー	15～30℃	・生検検体 検体受付が月火は 3 日 検体受付が水木金は 5 日 ・手術検体 検体受付から 10 日 ・免疫染色を要する場合 院内に抗体保有あり さらに 3～5 日 ・院外に染色依頼する場合 さらに 7～10 日	ヘマトキシリン・ エオジン染色 病理専門医による 検鏡診断
		丸タッパー			
		中ビン			
		特大ビン			
		小タッパー			
	組織検体 (生検検体)	中ビン			
		特大ビン			

※脱灰処理が必要な症例に関してはさらに日数を要する場合がある。

(2) 術中迅速組織診断

検査項目	提出材料	容器名称	保存	所要時間※	検査方法
術中迅速 組織診断	未固定組織	プラスチックシャーレ、 膿盆など	15～30℃	20～30 分	凍結切片による ヘマトキシリン・ エオジン染色 病理専門医による 検鏡診断

※所要時間は検体受取～結果報告の時間です。

※検体により作製標本数が増える場合は、さらに時間を要します。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(3) 細胞診断検査

検査項目	提出材料	容器名称	保存	所要日数※	検査法
婦人科 細胞診	婦人科材料 (P+EC、EM、V、 外陰部など)	細胞診固定用 アルコール（丸）	15～30℃	提出より 5 日	パパニコロウ染色 細胞検査士による スクリーニング 細胞専門医による検鏡 診断
		BD SurePath™ Collection Vial			
細胞診	喀痰	14			
	自然尿、 膀胱尿など	11、12、27 ハルンカップ			
	髄液	20			
	BAL、 気管支洗浄液	18			
	胆汁、膵液など	12			
	体腔液など	12			
	穿刺吸引 (甲状腺、乳腺、リン パ節など)	細胞診固定用 アルコール（丸）			
		BD SurePath™ Collection Vial			
		CytoRich™ Red 入 りスピッツ			
	ブラシ擦過、 ブラシ洗浄 (胆、膵、 気管支など)	細胞診固定用 アルコール（四角）			
		BD SurePath™ Collection Vial			
		12			

※所要時間は検体受付～結果報告の時間です。

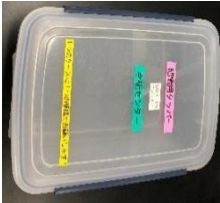
武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(4) 術中迅速細胞診検査

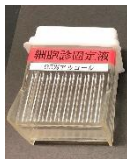
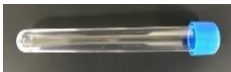
検査項目	提出材料	容器名称	保存	所要時間※	検査方法
術中迅速 細胞診	体腔液 など	12	15～30℃	60 分	パパニコロウ染色 細胞検査士によるスク リーニング 細胞専門医による検鏡 診断

※所要時間は検体受取～結果報告の時間です。

3.8.2 容器一覧

容器名称	容器	内容液	備考
大タッパー		15%中性緩衝ホルマリン 固定液	組織に 木札をつける
丸タッパー		15%中性緩衝ホルマリン 固定液	組織に 木札をつける
小タッパー		10%中性緩衝 ホルマリン固定液	紙札を入れる
特大ビン		10%中性緩衝 ホルマリン固定液	容器本体に ラベルを貼る
中ビン		10%中性緩衝 ホルマリン固定液	容器本体に ラベルを貼る
細胞診固定用 アルコール(丸)		95%エタノール	容器本体に ラベルを貼る

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

細胞診固定用 アルコール(四角)		95%エタノール	容器本体に ラベルを貼る
BD SurePath™ Collection Vial		BD SurePath™ 保存液	容器本体に ラベルを貼る
CytoRich™ Red 入り スピッツ		CytoRich™ Red Preservative	容器本体に ラベルを貼る
11.ポリスピッツ (黄)			
12.滅菌中試験管 (青)			
14.滅菌カップ (黄)			
18.滅菌ポリスピッツ (白)			
20.滅菌ポリスピッツ (白)			
27.滅菌カップ (赤)			

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

3.9 生理機能検査

3.9.1 項目一覧

検査項目		所要時間※	備考
心電図検査	12誘導心電図（ポータブル12誘導心電図）	8分	
	3分間心電図（ポータブル3分間心電図）	10分	
	レートポテンシャル	25分	
	CVRR	8分	
	ホルター心電図	30分	
負荷心電図検査	マスター負荷試験（シングル・ダブル・トリプル）	30分	
	歩行負荷試験（50m、100m、200m、6分間歩行）	30分	
	起立試験	30分	
	トレッドミル検査	30分	
呼吸機能検査	肺活量	10分	
	気道可逆試験	90分	
	精密呼吸機能	30分	
超音波検査	心臓超音波検査（ポータブル心臓超音波検査）	20分	
	腹部超音波検査（ポータブル腹部超音波検査）	15分	食事止め
	頰動脈超音波検査	15分	
	甲状腺超音波検査	15分	
	甲状腺エコー下生検	15分	医師施行
	下肢超音波検査	30分	
	乳房超音波検査	15分	
	表在超音波検査	15分	
	腎臓超音波検査（腎臓内科）（泌尿器科）	10分	
	肝臓エラストグラフィ	10分	食事止め
	FMD 血管内皮機能	60分	食事止め
	経食道心臓超音波検査	30分	医師施行
血圧脈波		30分	
24時間血圧検査		30分	
SPP 皮膚灌流圧検査		120分	
脳波検査（ポータブル脳波）		60分	
小児脳波検査		60分	

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

誘発脳波検査	ABR	60 分	
	上肢 SEP	60 分	
	下肢 SEP	120 分	
	VEP	60 分	
神経伝導検査		60 分	
NIRS 検査		30 分	
耳鼻科で行う検査	標準純音聴力検査	20 分	
	ティンパノメトリー	10 分	
	耳小骨筋反射検査 (SR)	10 分	
	結合耳音響放射 (DP)	10 分	
	標準語音聴力検査	60 分	
	SISI 検査	35 分	
	自記オーディオメトリー検査 (Bekesy 検査)	60 分	
	耳鳴検査	20 分	
	電気眼振図検査 (ENG)	60 分	
	カロリックテスト	60 分	

※所要時間は患者呼び入れ～会計処理までの時間です。

※ホルター心電図と 24 時間血圧検査の結果報告は、検査翌日以降になります。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

4. 夜勤休日日勤検査項目一覧

＜業務時間＞

平日 時間外(夜間) 17:00～翌 8:30

休日 24 時間対応

	検査項目
生化学検査・免疫学検査 (血液検体)	TP・ALB・LD・AST・ALT・TB・DB・ALP・NH3・UN・CRE・Na・K・Cl・ Na (ヘパリン血)・K (ヘパリン血)・Cl (ヘパリン血)・IP・Mg・TG・AMY・ P-AMY・CK・CK-MB・ミオグロビン・GLU・高感度トロポニン I・BNP・ 毛細管ビリルビン・B-OSM・CRP・FT3・FT4・TSH・バンコマイシン・テオフィリン・ 梅毒 RPR・TPLA 定性・HBs 抗原・HBs 抗体 (職員の針刺し事故に対応のみ)・ HCV 抗体・HIV 抗原抗体
生化学検査・免疫学検査 (尿・透析液検体)	Na・K・Cl・CRE・U-OSM ※材料により異なりますので、オーダー画面の時間外 2 をご参照ください。 ※なお、ご不明な点がございましたら検査室までお問い合わせください。
生化学検査・免疫学検査 (髄液・胸水・腹水・心嚢水・ 関節液・CAPD 廃液・BAL)	TP・GLU・Cl・LD (胸水のみ) ※材料により異なりますので、オーダー画面の時間外 2 をご参照ください。 ※時間外検査 2 のタブにない材料 (関節液は除く) は GLU のみ測定します。
血液学検査	WBC・RBC・Hb・Ht・PLT・時間外血液像 (機械値) PT・APTT・フィブリノゲン・ATⅢ・D-ダイマー・FDP
尿一般検査	尿一般定性・髄液 (細胞数・細胞種類)
輸血部	ABO・RhD 血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験
微生物検査・ウイルス 迅速検査	インフルエンザウイルス (A、B) 抗原・RS ウイルス抗原・アデノウイルス抗原・尿中レ ジオネラ抗原・尿中肺炎球菌抗原・A 群 β 溶血連鎖球菌抗原・
微生物塗抹検査	抗酸菌染色 (チールネルゼン染色のみ)

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

5. 検査依頼

オーダーリングシステムによる依頼と、伝票による依頼がある。伝票による依頼は災害時、システムトラブル時などに限定される。なお、口頭による依頼は受け付けない。

5.1 検体検査・微生物検査依頼

5.1.1 オーダーリングシステムによる依頼

医療情報システム（HIS）から検査依頼を行う。

- (1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開く。
- (2) 検査から必要な検体検査項目を選択し依頼する。
- (3) バーコードラベルが発行されるので、採取容器にラベルを貼る。
- (4) 7.検体採取手順に準じた方法で検体を採取し、検査室へ提出する。

5.1.2 伝票による依頼

- (1) 指定の用紙に、患者 ID、氏名、生年月日、性別、採取日、検査項目（検体種別）、主治医名等、必要事項を記入する。
- (2) 7.検体採取手順に準じた方法で検体を採取された検体に、患者 ID、氏名等を記入し、伝票とともに検査室へ提出する。

5.2 生理機能検査依頼

オーダーリングシステム（HIS）により依頼される。

- (1) 電子カルテから患者 ID を入力をして患者情報画面を開く。
- (2) 必要な検査を依頼する。
- (3) 受付票・基本スケジュール表・ネームバンドに記載のバーコード、または診察券を用い、PrimeVita Plus で受付を行う。

5.3 病理部検査依頼

5.3.1 組織診検査

5.3.1.1 オーダーを、検体採取の当日に入力する場合

- (1) 電子カルテ上で組織診オーダーを入力する。
 [ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「病理診断」→「分類、臓器名、切除方法、病名、臨床所見」等の必須事項を入力→「確定」]
 組織依頼書と、検体ラベルが出力される。出力された依頼書にシェーマを追記する。
 ＊臨床経過および所見等は詳細に入力する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

- (2) 検体容器に検体ラベルを貼り、組織依頼書と併せて病理部に提出する。

5.3.1.2 オーダーを、検体採取の当日以前に入力する場合

- (1) 電子カルテ上で組織診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダー」→「病理診断」→必須事項を入力→「確定」]

組織依頼書のみが出力される。依頼書にシェーマを追記する。

*臨床経過および所見等は詳細に入力する。

- (2) 検体採取当日に検体ラベルを手動で出力する。

[ナビゲーションマップ ビ「看護」→外来（病棟）検体ラベル機能]

検体ラベルが出力される。

- (3) 検体容器に検体ラベルを貼り、組織依頼書と併せて病理部に提出する。

5.3.2 術中迅速組織診検査

術中迅速診断は予約制であるため、前日までにあらかじめ病理部に電話で予約する。

その際、患者氏名と迅速検体提出のおおよその時間を伝える。

5.3.2.1 基本的な提出方法

- (1) 手術開始前に、電子カルテで術中迅速組織診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダー」→「術中迅速」→「分類、臓器名、切除方法、病名、臨床所見」等の必須事項を入力→「確定」]

迅速組織依頼書と検体ラベルが出力される。

- (2) 迅速検体が摘出されたら、検体をシャーレ容器に入れ、検体ラベルを貼る。

大きい検体は膿盆等に入れて布で包み、布に検体ラベルを貼る。ビニール袋に入れた場合は、袋または布にラベルを貼る。

5.3.2.2 術中迅速組織診の追加

- (1) 電子カルテはオーダーロックされている状態なので、追加の検体ラベルを出力することができない。

- (2) 提出時は、追加検体の容器に、患者氏名、採取部位を明記し提出する。

5.3.2.3 術中に生じた急な依頼（事前予約なし）

- (1) 病理部に電話連絡をする。

- (2) 提出時、検体の容器に患者氏名、採取部位を明記する。

- (3) 担当医か代理者が、電子カルテで術中迅速診依頼書の入力を行い、検体ラベルと術中迅速組織依頼書を病理部に提出する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

- (4) 検体提出と同時に術中の依頼書の発行ができない場合は、手術終了後に依頼書を発行し、すみやかに病理部に提出する。

5.3.3 細胞診検査

5.3.3.1 婦人科細胞診

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダー」→「細胞診検査」→「分類、材料名、採取方法、病名、臨床所見」等の必須事項を入力→「確定」]

細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。臨床経過および所見等は詳細に入力する。出力された依頼書にシェーマを追記することも可能である。

- (2) 検体容器に細胞診検体ラベルを貼り、細胞診依頼書と併せて病理部に提出する。

5.3.3.2 塗抹細胞診（外来）

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダー」→「細胞診検査」→必須事項を入力→「確定」]細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。臨床経過および所見等は詳細に入力する。出力された依頼書にシェーマを追記することも可能である。

- (2) 細胞診依頼書にガラスの枚数を手書きで記載する。

(オーダー時に入力した場合は不要)

- (3) 検体容器に細胞診検体ラベルを貼り、細胞診依頼書と併せて病理部に提出する。

5.3.3.3 尿細胞診（外来、当日採取）

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダー」→「細胞診検査」→必須事項を入力→「確定」]

細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。臨床経過および所見等は詳細に入力する。出力された依頼書にシェーマを追記することも可能である。

- (2) 泌尿器科以外の科は、上記に加え、コメントラベル（尿細胞診あり）を入力する。

[ナビゲーションマップ →「オーダー」→「検体検査」→「伝達コメント」→「病理コメント」→「尿 細胞診あり」→「確定」](コメントラベルは中央採血室に出力される。)

- (3) 細胞診検体ラベルは細胞診依頼書にクリップで留め、ダムウェーターで中央採血室に提出する。

- (4) 中央採血室で検体容器に細胞診検体ラベルを貼り、細胞診依頼書と併せて病理部に提出する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

5.3.3.4 喀痰細胞診（外来、当日採取）

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダー入力を行う。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「細胞診検査」→必須事項を入力→「確定」]

細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。臨床経過および所見等は詳細に入力する。出力された依頼書にシェーマを追記することも可能である。

- (2) 電子カルテ上で、コメントラベルを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「検体検査」→「伝達コメント」→「病理コメント」→「喀痰 細胞診あり」→「確定」](コメントラベルは中央採血室に出力される。)

- (3) 細胞診検体ラベルを、細胞診依頼書にクリップで留め、ダムウェーターで中央採血室に提出する。

- (4) 中央採血室で検体容器に細胞診検体ラベルを貼り、細胞診依頼書と併せて検査総合受付に搬送する。(コメントラベルがある場合は、喀痰容器に貼られる。)

5.3.3.5 喀痰細胞診（外来、検体を後日持参する場合）

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダーを入力する。採取日時は、「日未定」にチェックを入れる。

[ナビゲーションマップ →「オーダ」→「細胞診検査」→必須事項を入力→「確定」]

- (2) 電子カルテ上で、コメントラベルを入力する。

[ナビゲーションマップ →「オーダ」→「検体検査」→「伝達コメント」→「病理コメント」→「喀痰 細胞診あり」→「確定」]
(この時点で、コメントラベルは出力されない。)

- (3) 患者により、検体が中央採血室に提出される。

- (4) 中央採血室担当者により、採取日時が入力され、この時点で細胞診依頼書、細胞診検体ラベル、コメントラベル（喀痰 細胞診あり）が出力される。

- (5) 中央採血室でコメントラベルと細胞診検体ラベルを検体容器に貼り、細胞診依頼書と併せて病理部に提出する。

5.3.3.6 上記以外の細胞診、および病棟での細胞診

- (1) 電子カルテ上で、細胞診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「細胞診検査」→必須事項を入力→「確定」]

細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

- (2) 細胞診検体ラベルを容器に貼り、細胞診依頼書と併せて検査総合受付または病理部に提出する。

＊呼吸器細胞診検体オーダー時の注意点

呼吸器科の検体は、材料名ごと（気管支塗抹、BAL、洗浄液等）にオーダーをする。

5.3.3.7 セルブロック作製

5.3.3.7.1 セルブロック作製依頼

- (1) 担当医が、セルブロック作製の希望と理由を、病理医(櫻井部長：PHS 8223)に連絡する。
- (2) 細胞診標本の依頼書の「臨床所見」欄に、セルブロック作製を希望する旨を記入する。
- (3) 検査技師あるいは病理医が、細胞診標本にてセルブロック作製の可否を検討し、細胞診の報告書の所見欄に作製可能か否かを記載する。
- (4) セルブロック標本作製が行われた場合、その結果を、細胞診の追加報告書にて報告する。

5.3.3.7.2 セルブロック標本作製が不可となる場合

- (1) 採取検体量が少ないため、十分な細胞量が確保できない場合
予めセルブロック作製を依頼する場合は、容器複数本分を採取することが望まれる。
- (2) 標本中に含まれる異型細胞が少ない場合
- (3) セルブロック標本作製の依頼が、検体採取から 1 週間以上経過して行われた場合
細胞診の元検体は、検体採取から 1 週間程度で破棄するため。

5.3.3.7.3 セルブロック標本作製の適応

- (1) 組織診検体の採取が諸事情により困難である。
- (2) 病理診断が確定した後、治療（緩和ケア以外）を行う可能性がある。
上記のごとき症例に限定する。

5.3.3.8 細胞診検体検体による EGFR・ALK 検査

対象検体：胸水、気管支洗浄液、髄液

- (1) 細胞診断用検体と、外注検査用検体を、別々の容器で提出する。
- (2) 細胞診断用検体を入れた容器には、細胞診オーダー時に出力された細胞診検体

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

ラベルを貼付する。

- (3) 外注検査用検体を入れた容器には、細胞診検体ラベルと同時に出力される「ここまで」ラベルを貼付する。「ここまで」ラベルには、赤油性マジックで、検査項目名、病理へ、と記載する（下記写真参照）
- (4) 細胞診断用検体と外注用検体、細胞診依頼書を併せて、検査総合受付または病理部に提出する。

EGFR の場合：



細胞診検体ラベル

EGFR 用
(ここまでラベル)

ALK の場合：



細胞診検体ラベル

ALK 用
(ここまでラベル)

注意：細胞診検体による ALK 融合遺伝子変異解析（FISH）は、凍結保存検体では検査できない。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

5.3.4 術中迅速細胞診

事前に、病理部に直接電話連絡にて検査予約を行う。

原則完全予約制とし、予約のない検査は行わない。

- (1) 電子カルテ上で、術中迅速細胞診オーダーを入力する。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「細胞診オーダー入力画面」→「術中」を選択→「分類、材料名、採取方法、病名、臨床所見」等の必須事項を入力→「確定」]

細胞診検体ラベルと細胞診依頼書が出力される。

- (2) 細胞診検体ラベルを検体容器に貼付する。この際、担当者 2 名で確認を行う。

5.3.5 他院借用標本の依頼

- (1) 電子カルテでオーダー入力をする。

[ナビゲーションマップ ビ「オーダ」→「病理診断または細胞診検査・婦人科細胞診検査」→左上の「通常/標本診断」欄にて、「標本診断」を選択 本必須項目を入力→「確定」] ラベルと依頼書が出力される。

- (2) 依頼書または別紙に借用標本枚数及び確認者を記載し提出する。

別紙がない場合は、病理部の受付にて、搬送者と病理技師とで枚数を照合して、直接依頼書に手書きで記載する。

5.3.6 オーダーの訂正、キャンセル

5.3.6.1 訂正

5.3.6.1.1 入院オーダー

- (1) 依頼書の入力画面を開き、内容を訂正、確定ボタンを押し、新しい依頼書を出力する。
- (2) 検体ラベルを手動で出力する。[ナビゲーションマップ→「看護」→外来（病棟）検体ラベル機能]
- (3) はじめに出力した依頼書と検体ラベルは破棄する。

5.3.6.1.2 外来オーダー

訂正ができないので、下記のキャンセルと同様の手順に従い、新たにオーダーをたてる。

5.3.6.2 キャンセル

5.3.6.2.1 確定前（入院オーダーで病理部門システム未受付の場合）

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

電子カルテ上でオーダーを削除する。

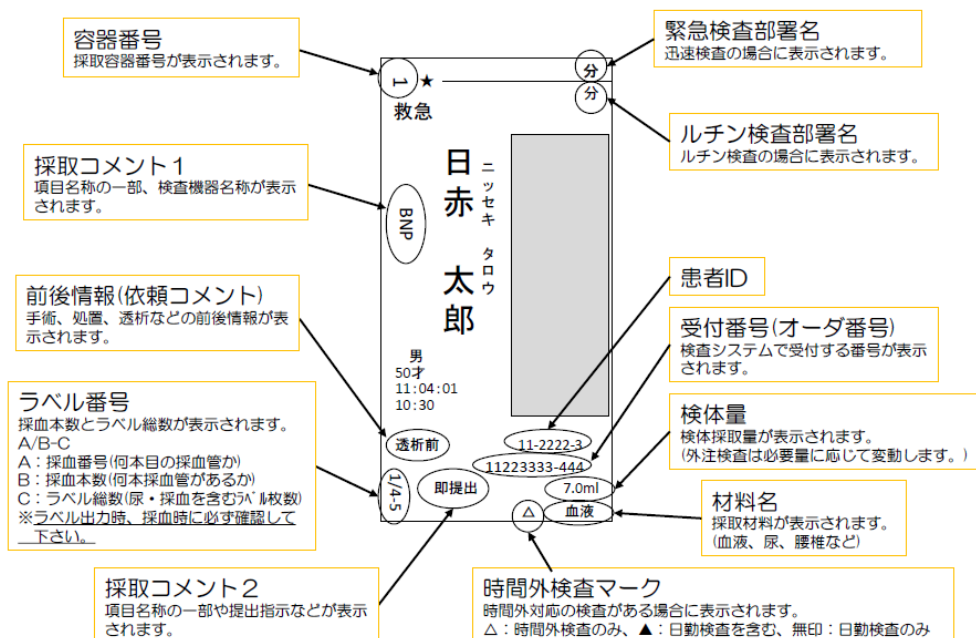
5.3.6.2.1 確定後（外来オーダーで確定後、入院オーダーで病理部門システム
受付済みの場合）：

- (1) 電子カルテ上でオーダーを削除し、画面上に表示される指示に従う。
- (2) 検体ラベルと依頼書に、赤マジックで「キャンセル」と記載して病理部に
提出する。
- (3) 医事課にオーダーをキャンセルした旨を連絡する。
(未連絡であると、会計が発生します)

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

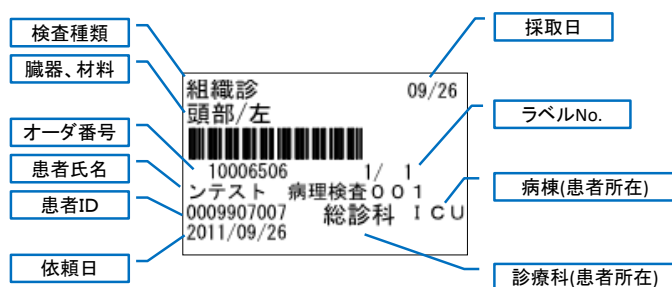
6. 採取ラベル内容

6.1 検体検査ラベル



6.2 病理部ラベル

病理オーダ(病理、術中迅速、細胞診、婦人科細胞診)のラベル印字内容を以下に記載します。



印刷サンプル

組織診 09/26
頭部/左
10006506 1/1
ンテスト 病理検査001
0009907007 総診科 ICU
2011/09/26

【組織診】

術中迅速 09/26
頭部/左
10006508 1/1
ンテスト 病理検査001
0009907007 総診科 ICU
2011/09/26

【術中迅速】

細胞診 09/26
喀痰
10006507 1/1
ンテスト 病理検査001
0009907007 総診科 ICU
2011/09/26

【細胞診】

細胞診(婦人) 09/26
V
10006509 1/1
ンテスト 病理検査001
0009907007 総診科 ICU
2011/09/26

【婦人科細胞診】

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

7. 検査を受けるための患者の準備

担当医または主治医より、実施される検査に関して事前にインフォームドコンセントがなされ、検体採取に関し同意が得られていることが必要である。

7.1 採血及び各種検体検査の準備

7.1.1 採血・尿等の検査（生化学・免疫血清・血液・一般・輸血）

- (1) 採血は早朝空腹時、かつ、激しい運動や飲酒を控えた状態で実施することが望ましい。
- (2) 特に血糖検査では、食後に数値が上昇するため早朝空腹時が望ましい。
- (3) 糖尿病・高脂血症などで飲食の指示がある場合、または薬剤の服用時間の指示のある場合は主治医の指示に従う。
- (4) ビタミンC剤、総合ビタミン剤は尿検査に影響するため、検査当日には服用しない。
- (5) 患者自身による検体採取を行う場合、採取法を厳守する。
- (6) 事前採取が必要な検体に関しては、提出期限を厳守する。

7.1.2 喀痰の検査（微生物・病理）

- (1) 喀痰はうがい等で口腔内を清潔にしてから、強く深く咳をして採取する。
- (2) ティッシュペーパーに入れず、直接容器に出す。

7.1.3 尿・体腔液等の検査（病理）

- (1) 早朝尿・第一尿は避け、随時尿が望ましい。
- (2) 体腔液採取時は医師の指示のもと、体位変換を行う。

7.2 生理機能検査の準備

7.2.1 生理機能検査を受ける患者の準備

(1) 服装の準備

心電図検査・ホルター心電図・負荷心電図検査・超音波検査・血圧脈波・24時間血圧検査・SPP 皮膚灌流圧検査・神経伝導検査は検査部位が見えやすく脱ぎやすい服装が望ましい。

(2) 持ち物

特になし。

(3) 患者の確認

生理機能検査室では2種類以上の方法で患者確認を実施している。

7.2.2 生理機能検査を受ける患者の注意点・中止条件

- (1) 生理機能検査室で行うすべての検査

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

a. 中止条件

- 1) 検査の同意が得られない患者。
- 2) 検査の協力が得られない患者。

(2) 心電図・負荷心電図検査

a. 注意点

- 1) 負荷心電図検査は運動しやすい服装が望ましい。
- 2) マスター負荷心電図検査、トレッドミル運動負荷試験での点滴中の患者は留置針処置後に検査実施を行う。
- 3) 目の不自由な患者の負荷心電図検査は検査室にご相談いただく。
(盲目の患者の場合、マスター負荷心電図検査とトレッドミル運動負荷試験は不可)

b. 中止条件

電極装着部位に大きな創部などがあり、装着出来ない患者。
負荷心電図検査の場合は下記となる。

絶対禁忌になる疾患と病態急性心筋梗塞

- 1) 不安定狭心症
- 2) コントロール不良の不整脈
- 3) 大動脈弁狭窄症
- 4) 急性あるいは重症心不全
- 5) 急性肺塞栓または肺梗塞
- 6) 急性心筋炎または心膜炎
- 7) 解離性大動脈瘤などの重篤な血管病変

相対的禁忌となる疾患と病態

- 1) 左冠動脈主幹部の狭窄
- 2) 中等度の狭窄性弁膜症
- 3) 高度の電解質異常
- 4) 重症高血圧（原則として収縮期血圧＞200mmHg、又は拡張期血圧110mmHg、あるいはその両方）
- 5) 頻脈性不整脈または徐脈性不整脈
- 6) 閉塞性肥大型心筋症などの流出路狭窄
- 7) 高度房室ブロック
- 8) 運動負荷が十分に行えない精神的・身体的障害例

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(3) ホルター心電図

a. 注意点

- 1) 機械装着中は入浴できない。(30 分以内のシャワーは可)
- 2) 機械装着中はレントゲン・CT・MRI などの機械が故障する恐れのある検査は出来ない。
- 3) 直接身体に触れる電気製品(電気毛布、電気の治療器)などは使用を控えていただく。
- 4) 機械装着中の入院患者は、基本的に病棟にて取り外す。

b. 中止条件

後日、機械の返却が出来ない患者

(4) 呼吸機能検査

a. 注意点

- 1) 精密呼吸機能検査では DLco 値に影響があるため 24 時間以上の禁煙をしていただく。
- 2) 精密呼吸機能検査では食後 2 時間以上の検査が望ましい。

b. 中止条件

- 1) 椅子又は車椅子に座位になれない患者。(ストレッチャーなど)
- 2) 排菌している結核患者。
- 3) 酸素吸入中の患者において、測定中の酸素吸入停止が難しい場合。
- 4) 鼻腔チューブを挿入している患者。
- 5) VC が 1500ml 未満の場合、Dlco の測定可能域から外れるため精密呼吸機能検査を中止とする。
- 6) 気管切開をしている患者。

(5) 腹部超音波検査 (ポータブル腹部超音波検査)

a) 注意点

朝欠食が望ましい。

(6) 肝臓エラストグラフィ

a) 注意点

朝欠食が望ましい。

(7) FMD 血管内皮機能

a) 注意点

- 1) 検査 1 時間前から血圧測定は控えていただく。
- 2) 午前に検査を行う場合、食後 8～12 時間以上 (前日夜 9 時以降絶食) 経過後の検査が望ましい。
- 3) 午後に検査を行う場合、軽食摂取後 4 時間以上経過後の検査が望ましい。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

- 4) 検査前 4～6 時間の運動・カフェイン・高脂肪食・ビタミン C・喫煙を避けていただく。
- 5) 血管に作用する薬剤は 4～5 半減期控えていただく（可能ならば）。
- b) 中止条件
 - 1) 安静が保てない患者。
 - 2) 両側ともにカフによる加圧を出来ない患者。
- (8) 腎臓超音波検査
 - a) 注意点

膀胱部の検査もある患者は検査の 1-2 時間前から尿を貯めていただく。
- (9) 経食道心臓超音波検査
 - a) 注意点
 - 1) 食後 4 時間以上の検査が望ましい。
 - 2) 検査時に入れ歯は外していただく。
- (10) 血圧脈波
 - a) 注意点

片腕に点滴中、留置針、透析用シャント、フラッシュグルコースモニタリング (FGM)、リブレ、乳房切除がある場合、上腕は反対側のみの検査となる。
- (11) 脳波検査・誘発脳波
 - a) 注意点
 - 1) 時間のかかる検査のため、先にトイレなどをすませていただく。
 - 2) 入眠時の検査記録が重要なため、なるべく眠りやすい状態（早起き・昼寝をしないなど）が望ましい。
 - 3) 鎮静薬を使用する小児患者は検査 60 分前までに依頼科へ行っていただく。
 - 4) 鎮静薬使用時は、基本的に検査前の飲水摂取は 1 時間前まで、固形物摂取は 3 時間前までにとどめる。検査終了から 2 時間程は固形物摂取を控えていただく。
- (12) 24 時間血圧検査
 - a) 注意点
 - 1) 機械装着中は入浴できない。
 - 2) 機械装着中はレントゲン・CT・MRI などの機械が故障する恐れのある検査は出来ない。
 - b) 中止条件

後日、機械の返却が出来ない患者。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

8. 検体採取手順

8.1 外来検体の準備

- (1) 受診票を受け取り、バーコードを読み取る。
- (2) 採尿がある患者に、BC-ROBOコードラベルの付いた採尿カップを渡す。
- (3) 採尿が済んだら、トレイ内の指示ラベルをシステムから番号案内し、
該当する患者様から受診票を受け取り、バーコードを読み取り認証する。
- (4) BC-ROBOが作製したトレイ内の試験管と指示ラベルの内容を確認する。
- (5) ラベルのみ出力されたものは、指定された専用容器に貼り、事前に準備する。
- (6) 試験管のラベルに検査に関するコメント(アルコール禁)を確認する。
- (7) 患者を呼び入れ採血を実施する。

8.2 病棟検体の準備

8.2.1 病棟検体（事前予約分 平日分は前日 16 時、休日分は休前日の 14 時まで）

- (1)前日にBC-ROBOでラベル・採血管の準備をする。
- (2)ラベルのみ出力されたものは、指定された専用容器を準備する。
- (3)BC-ROBOで作製した採血試験管と採血リストを指定の病棟に配置する。
- (4) 検体を採取する。

8.2.2 病棟検体（8.2.1で指定された時間以降および当日分）

- (1) HISに接続されたラベルプリンタにラベルが発行される。
- (2) ラベルに指定された容器を準備する。
- (3) 検体を採取する。

8.3 検体採取方法

8.3.1 血液採取「標準採血法ガイドライン（GP4-A3）」に準じて血液採取を行う。

8.3.1.1 採血方法

- (1) 採血の説明
 - a. 採血の説明は医師が行う。
 - b. 患者が採血を拒否した場合は依頼医師または依頼科に連絡し、医師により
再度採血の必要性を説明してもらう。
- (2) 採血管の準備とラベルの確認
 - a. 採血者はラベルの内容と試験管の本数を確認する。
 - b. 患者確認は姓名および患者 ID など複数の方法にて行う。
- (3) 必要器具の準備

患者の血管により適切な採血器具を選択する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(4) 採血前に必要事項を確認する。

- a. アルコールによるかぶれはないか
かぶれがある場合はヘキシジン消毒液を使用する
- b. テープを使用してかぶれはないか
かぶれがある場合は伸縮性の包帯で対応する
- c. 抗凝固薬の使用などで血液が止まりにくくないか
血液が止まりにくい場合は 10 分以上採血部位を圧迫してもらう。
- d. 以前、採血で気分が悪くなったことはないか
気分が悪くなったことがある場合はベッドにて臥位で採血する。
- e. 採血してはいけない腕はないか
乳房切除・留置針・シャント等ある場合は反対の腕で採血する。
- f. 時間採血
該当の時間で採血が行えるよう調整する。

(5) 手袋の装着

- a. 採血者はエタノール含有ジェルにて手指消毒を行う。
- b. 手袋を装着し患者毎に交換する。
- c. 患者または採血者にラテックスアレルギーがある場合は非ラテックス製の
手袋を使用する。

(6) 血管の選択

- a. 肘正中皮静脈、尺側皮静脈、橈側皮静脈のいずれかの血管のうち、太さ、深さ、
弾力性などの観点から最も採血に適した血管を選択する。ただし、各静脈の付
近を正中神経、内側前腕皮神経、外側前腕皮神経が走行している場合があるの
で注意する。
- b. 両側の肘窩部に採血可能な血管がない場合は、前腕または手背の静脈を用いる。
橈骨付近の静脈は付近を橈骨神経が走行しているため避ける。

(7) 採血を避ける部位

- a. 火傷痕や重症のアトピー性皮膚炎のある部位。
- b. 血腫や感染のある部位。
- c. 乳房切除を行った側の腕の血管（リンパ流鬱滞を生じる可能性あり）。
- d. 留置針のある側の腕の血管。
- e. シャントのある側の腕の血管。

(8) 患者の姿勢

- a. 座位または臥位にて採血を行う
- b. 採血する腕を伸ばして腕枕に置いてもらう。
- c. 穿刺部位が心臓よりも低い位置に来るようにする。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(9) 駆血

- 駆血帯装着の位置は採血部位の 7～10cm 程度上腕側に巻く。
- 末梢側に過度の鬱血や出血斑、しびれが見られた場合駆血帯を一旦解除し、症状が改善したら再度駆血帯を装着する。
- 長時間駆血帯を装着してしまうと、血液の濃縮などにより検査データに影響が生じる。通常 1 分以内であれば検査項目への影響は許容範囲内である。

(10) 血管を怒張させる手技

- 末梢側から穿刺部位に向けて前腕をマッサージする。
 - 血管を数回軽く叩く。
 - 温めたタオルをビニール袋に入れて穿刺部位付近を温める。
- ※パンピング（何度も手を握ったり開いたりを繰り返す）動作や手を強く握ることはカリウムなどの検査値に影響を与える可能性があるため行わない。

(11) 穿刺血管の決定

- できるだけ太く怒張し、まっすぐで弾力のある血管を選ぶ。
- 弾力がなく固い血管はできるだけ避ける。
- 拍動がある血管は動脈なので採血しない。

(12) 消毒

- 約 80%エタノールまたは約 70%イソプロピルアルコール綿を使用する。
- アルコールにアレルギーのある患者にはヘキシジンで消毒する。
- 消毒液の乾燥が不十分の場合、穿刺時の痛みが増したり検体の溶血を生じる危険性があるため、自然乾燥するまで待つ。
- 綿球は中で絞らず、一度出したら戻さないこと。

(13) 採血針の刺入

- 穿刺部位の 3～5cm 末梢側を指で軽く押さえて皮膚を緊張させると刺入が容易になる。
- 刃面を上にして血管に対して 30 度以下程度の角度で刺入し、針が動かないように固定する。

(14) 採血管の差し込み

- ホルダーを確実に保持し、採血管をまっすぐ確実にさし込む。
(ゴム栓は特にしっかり固定する)
- 1 本の採血針により採血する本数は原則 10 本までとする。

(15) 採血管種類による採血順序

- 真空採血管：プレーン管①→凝固⑦→血沈⑨→（ヘパリン）→EDTA
翼状針採血にて凝固や血沈を 1 番目に採取する場合は最初にダミー採血をする。
- 注射器（分注）：凝固⑦→血沈⑨→（ヘパリン）→EDTA→プレーン管①

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

注射器から採血管に血液を分注する際は、針刺し事故を防止するため専用安全器具で針を外し、血液分注用安全機材（以下デバイス）を用いて採血管に血液を分注する。

(16) 採血管の抜去

- 必要量の採血を採取した後、採血管をまっすぐホルダーから抜去する。
- 血液の入った試験管がなるべく患者に見えないように容器に入れる。

(17) 採血管の転倒混和

- 採血管をホルダーから抜去した後、速やかに 5 回程度確実に転倒混和を行う。
- 転倒混和は泡を立てないように緩やかに行う。

(18) 採血量・凝固の確認

- ラベルに記載されている採血量に満たしているか。
- 抗凝固剤入りの試験管は凝固していないか。
- 採血量や凝固確認が不安な時は、検査室に検体を送って担当者に確認してもらい、確認が取れたら採血を終了する。再度採血が必要な時は患者に説明し採血する。

(19) 駆血帯の解除

- 最後の採血管を抜去した後に駆血帯を解除する。
- 採血管がホルダーに差し込まれたまま駆血帯を外すと圧力差により採血管から血管内への逆流が起こることがある。

(20) 採血針の抜去

- 針の抜去は駆血帯を外した後に行う
- 消毒綿またはガーゼ、綿球で軽く押さえながら針を抜く。
- 針が抜けたら消毒綿またはガーゼで穿刺部位を強く圧迫する。
- 針刺し防止機能がついた針の場合は正しく作動させる。
- 抜去後の針はリキャップしてはならない。

(21) 止血

- 通常患者では 5 分程度、穿刺部位を強く圧迫するように指示する。
- 出血傾向のある患者は長めに圧迫するよう指示する。
- 肘を曲げることのみによる止血は効果が不十分になる可能性が高いので行わない。

(22) 採血器具の廃棄

- 採血針はホルダーまたは注射器、デバイスと一体で鋭利器材専用の感染廃棄容器に捨てる。
- 手袋は段ボールの赤ゴミに捨てる。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(23) 採血後の採血管の取扱い

- a. 採血本数を確認し完了とする。
- b. 採血後の採血管は必ず手袋をして取り扱う。

(24) 院内採血のルール

血液型とクロスマッチ同時採血の場合は、患者確認の際に 2 名のスタッフでダブルチェックを行い、血液型とクロスマッチのラベルそれぞれに 1 名ずつダブルチェックしたスタッフが赤で記名する。

(例：クロスマッチ採血管 ○○さん、血液型用採血管 △△さん)

(25) 検体の搬送

採取した検体は 9.検体搬送手順の容器に入れて搬送する。

8.3.1.2 採血前に処置が必要な検査項目

8.3.1.2.1 グルコース負荷試験 (50OGTT)

- (1) 依頼から「トレーランG50」であることを確認する。
- (2) 指示によるトレーランG50を全量飲んでもらう。
- (3) 指定された時間に採血を実施する。時刻は「中央採血室補助箋（様式番号：RE-採取-008）」に記載する。

8.3.1.2.2 グルコース負荷試験 (75OGTT)

- (1) 依頼から「トレーランG75」であることを確認する。
- (2) 負荷前血糖採血を実施する。
- (3) 指示によるトレーランG75を全量飲んでもらう。
- (4) 指定された時間に再度採血を実施する。時刻は「中央採血室補助箋（様式番号：RE-採取-008）」に記載する。

8.3.1.2.3 レニン・カテコラミン・アルドステロン・コルチゾール等の30分安静採血

- (1) 患者さんをベッドに案内し30分臥位で休んでもらう。
- (2) 30分後、臥位の状態のままで採血を実施する。

8.3.1.2.4 血中薬物(TDM)

採血時刻が必要な項目については、投与直前、投与1時間後、投与2時間後等、ラベルの指示に従い、採血時刻を「TDM採血時刻（様式番号：RE-採取-007）」に記入し、コメントラベルを貼付して検査室へ提出する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

8.3.2 尿採取

8.3.2.1 採尿方法

尿は清潔な容器に採る。尿試験紙法における最も一般的な採尿法は自然排尿で、採尿の際に前半の尿は捨て中間尿※を採取する。できるだけ速やかに検査を行い、尿の変質や腐敗による結果の過誤を防ぐ。特に、女性の採尿の場合は、膣・外陰部由来の混入物を避けるため、局所を脱脂綿またはガーゼなどで清拭後、中間尿を採取させる。

※中間尿

最初の尿は採取せず、排尿を止めずに途中の尿を採尿容器に採取する。最後の尿も採取せず廃棄する。

8.3.2.2 採尿方法での留意事項

- (1) 尿の種類および随時尿、中間尿以外の採尿方法（早朝尿、初尿、カテーテル尿、尿路変更術後尿など）を明記する。
- (2) 採尿前に尿道口を清拭することが望ましい。
- (3) 防腐剤は添加しないことが望ましい。24時間畜尿では検査目的により防腐剤や保存剤を使用することがある。
- (4) 採尿後速やかに検査室に提出する。
- (5) 確認試験も考慮し最低10 mLの尿を採取する。
- (6) 生理中の場合にはバーコードラベルに明記する。
- (7) 蓄尿時は、蓄尿量、体重を「尿量等記入用紙（様式番号：RE-採取-006）」に記入し、コメントラベルを貼付して検査室へ提出する。

8.3.2.3 尿の種類

- (1) 随時尿
- (2) 早朝尿
- (3) 持参尿
- (4) 導尿
- (5) 畜尿
- (6) 右・左腎尿

8.3.3 便採取（便潜血）

採便棒で便の表面を幅広くこするか、5～6箇所突き刺して採取する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

8.3.4 微生物検体採取

- (1) 検体はなるべく無菌的に採取し、採取後は速やかに検査室に搬送する。
- (2) 発症後時間の経過とともに病原菌の検出率が低下するため、急性期検体を採取する。
- (3) 抗菌薬の投与により微生物は死滅するため、抗菌薬投与前に採取する。抗菌薬投与中の場合は、24 時間以上投薬を中止して採取するか、中止できない場合は、抗菌薬の血中濃度が最も低い時期に採取する。
- (4) 常在菌の混入は、起因菌の発育を抑制することがあり、起因菌の判断が困難となるため、検体採取の際は常在菌等の混入を極力避けるよう指導する。
- (5) 患者の状態を考慮し、安全性の高い採取法を選ぶ。
- (6) 患者に十分説明し、最良の検体が採れるように協力を求める。

8.3.5 病理検体採取

8.3.5.1 組織診断検査

- (1) 摘出した組織は自家融解、乾燥から防ぐため、直ちにホルマリン固定容器に入れ、固定する。
- (2) 固定容器は、大または丸タッパーで提出する際には患者氏名を明記した木札を、小タッパーで提出する際には患者氏名を明記した紙札を入れ、各種ビンで提出する際にはビンにラベルを貼る。複数部位から採取した場合には採取部位（臓器名や容器 No.等）も明記する。
- (3) 内視鏡検体の場合は、6 区画のカセットに検体番号を鉛筆で書いた濾紙を入れ、対応する検体番号の区画に検体を入れる。検体が大きくカセットに入らない場合は、ホルマリン固定液に検体番号を書いた濾紙と共に入れる。カセットの側面にカタカナで患者氏名を明記する（鉛筆にて）。
- (4) 前立腺針生検はカセットと濾紙に採取部位番号を鉛筆で書き、対応する検体を濾紙に貼り付けカセットに入れて、ホルマリン固定容器に入れる。
- (5) 各臓器の癌取り扱い規約に準じた処理が必要な検体は適宜処理し、ホルマリン固定容器に入れる。

8.3.5.2 術中迅速診断

迅速検体が摘出されたら、検体をシャーレに入れ、ラベルを貼る。大きい検体の場合は膿盆等に入れ布で包み、布に検体ラベルを張る。ビニール袋に入れた場合には、袋または布にラベルを貼る。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

8.3.5.3 細胞診断検査

7.3.5.3.1 婦人科材料

スライドガラスに塗抹する場合は、スライドガラスのフロスト面に鉛筆で患者氏名、年齢、採取部位を明記する。スライドガラスに塗抹後、直ちに細胞診固定用アルコールに浸漬する（湿固定）。容器にラベルを貼り提出する。

LBC 用ブラシで採取した場合は、直ちに BD SurePath™ Collection Vial に浸漬する。バイアルにラベルを貼り提出する。

8.3.5.3.2 喀痰

- (1) うがい等で口腔内を清潔にしてから、強く深く咳をして採取する。
- (2) ティッシュペーパーを入れず、直接容器に出す。
- (3) 既定の容器に入れて提出する。検体容器には必ずラベルを貼る。

8.3.5.3.3 尿

- (1) 自然尿は早朝尿・第一は避ける。細胞量が多いが、変性加わることが多いので、随時尿が望ましい。
- (2) 膀胱尿は検査前にトイレに行かず、尿を溜めておく。
- (3) 既定の容器に入れて提出する。容器には必ずラベルを貼る。

8.3.5.3.3 髄液

採取後、迅速に病理部に提出する。容器には必ずラベルを貼る

8.3.5.3.3 体腔液

- (1) 穿刺採取をする前に、患者の体位を動かして体腔に沈んでいる細胞を浮遊させてから採取を行う。
- (2) セルブロック作製や検体保存を希望の場合は、さらに多くの検体量が必要な場合がある。検体容器は問わないが、容器には必ずラベルを貼る。

8.3.5.3.3 胆汁・膵液など

採取後、迅速に病理部に提出する。容器には必ずラベルを貼る。

8.3.5.3.3 ブラシ擦過

スライドガラスのフロスト面に鉛筆で患者氏名を明記する。スライドガラスに塗抹後、直ちに細胞診固定用アルコールに浸漬する（湿固定）。容器にラベルを貼り提出する。依頼書にスライドガラスの枚数を必ず記載する。ブラシ洗浄液等は

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

既定の容器に入れる。容器には必ずラベルを貼る。

8.3.5.3.3 穿刺吸引検体

スライドガラスのフロスト面に鉛筆で患者氏名を明記する。スライドガラスに塗抹後、直ちに細胞診固定用アルコールに浸漬する（湿固定）。

容器にラベルを貼り提出する。依頼書にはスライドガラスの枚数を必ず記載する。

針先等を洗浄する場合は既定の容器を用いる。容器には必ずラベルを貼る。

8.3.6 呼気採取(尿素呼気試験)

- (1) 検査4時間前から絶食とする
- (2) ユービット錠の服用前に呼気を専用バッグに採取する。
- (3) ユービット錠(1錠)をつぶしたりせず、空腹時に水100mlとともに嚙まずに速やかに(5秒以内に)服用する。
- (4) 服用後、5分間体の左側を下にして横にする。
- (5) その後は15分間座らせる。
- (6) ユービット錠服用後20分にもう一度呼気を別の専用バッグに採取する。
- (7) (2)と(6)で採取したバッグを提出する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

9. 検体搬送手順

検体を搬送する場合は、必ず下記の検体搬送用の容器またはビニール袋等を用い、検体の紛失、破損がないようにする。また、検体の可視化を避け、個人情報の保護ができるよう注意する。

検体搬送容器（小）	検体搬送容器（大）	エアシューター用 気送管	エアシューター用 気送管 (血液培養専用)
			

10. 検体受付手順

10.1 受付場所

平日時間内（8:30～17:00） 2F 臨床検査部検体受付 TEL 5561
平日時間外、休日は PHS 8653 に連絡して下さい。

10.2 検体受入不可基準

表 検体受け入れ不可基準

検体のラベル 表示不良	ラベルなし
	取り直しの際の無記名、異なる氏名
	依頼内容と検体ラベルの不一致
	血液型検査、交差適合試験の同時採血で記名なし
検体の不良	凝固している検体
	採取量過不足
	採取容器違い
	保存状態・搬送状態不適切 (冷蔵・氷冷・遮光などがされていない等)
	適切でない時間にわたり放置された検体
	依頼中止されている検体
依頼書の不備	依頼書がない
	記載事項に間違いがある
	依頼書に必要事項が記載されていない

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

11. 追加検査の依頼手順（検体の保存期間、検体の安定性、保存方法）

検査後の検体の保存期間は原則以下の通りです(ただし、土日や連休はこの限りではない)。
依頼検体が、保存期間内にあり、残量があれば追加検査可能。検査項目毎に安定性が異なる場合があるため、安定期間を超える場合の追加検査については原則、参考値となります。詳細は、検査室に問い合わせのこと。

検体保存期間一覧

	検体種類	保存期間 (採取日含む)	検体の安定性		保存方法
生化学検査・免疫学検査	生化学・免疫学検体	5 日間	CK	3 日間	冷蔵
			CK-MB	3 日間	
			TG	当日	
			TB	当日	
			DB	当日	
			LD	3 日間	
			トランスサイレチン	当日	
			IgG	当日	
			IgA	当日	
			IgM	当日	
			C3	当日	
			C4	当日	
			ASLO	当日	
			CRP	当日	
			シスタチン C	当日	
			RF	当日	
			KL-6	当日	
		2 日間	HbA1c	2 日間	
		1 日間	NH3	追加不可	
		1 日間	BNP	1 時間	
		1 日間	高感度トロポニン I	8 時間	
		5 日間	HCV コア抗原	5 日間	
			FT3	当日	
			FT4	当日	

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			TSH	当日	
生化学検査・免疫学検査	生化学・免疫学検体	5 日間	CA19-9	当日	冷蔵
			CA125	当日	
			PSA	当日	
			コルチゾール	8 時間	
			インスリン	当日	
			C-ペプチド	2 日間	
			エストラジオール(E2)	当日	
			FSH	当日	
			LH	当日	
			テオフィリン	2 日間	
			ジゴキシン	2 日間	
			フェノバルビタール	2 日間	
			バルプロ酸	2 日間	
			フェニトイン	2 日間	
			M2BPGi	当日	
			PIVKA-II	当日	
			HCG	当日	
血液学検査	血算検体	2 日間	血算・血小板数、血液像	4 時間	冷蔵
			網状赤血球	4 時間	
	血沈検体	1 日間			冷蔵
	血漿（凝固）検体	1 日間	APTT	4 時間	冷蔵
			PT、フィブリノゲン ATⅢ	8 時間	
			D-ダイマー、血中 FDP	12 時間	
	骨髓（有核細胞数・巨核 球数）	2 日間			冷蔵
	末梢血液塗抹標本	1 年間			室温
輸血部	骨髓塗抹標本	20 年間			室温
	骨髓未染色標本	5 年間			室温
	血液型・クームス検体	2 週間			冷蔵
	交差適合試験検体	7 日間			冷蔵
	受血者検体（血漿）	2 年間			凍結

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

尿 一 般 検 査	尿（定性・沈渣）	1 日間	4 時間	室温
	体液 （髄液・胸水・腹水等）	1 週間	4 時間	冷蔵
	便（便潜血・虫卵検査）	1 日間		室温
微 生 物 検 査	一般細菌検査	2 週間	2 日間	冷蔵
	抗酸菌検査	6 週間（培養終了まで）	2 日間	冷蔵
病 理 部	ホルマリン固定組織	長期保存：5 年 一時保存：2 カ月* ¹		室温
	組織ブロック	20 年		室温
	組織診断標本	9 年		室温
	細胞診検体	1 週間		冷蔵
	細胞診標本	陰性症例：10 年 陽性症例：無期限		室温

*1 一時保存のホルマリン固定組織は 2 ヶ月未満であっても、組織診断が報告済みであれば、破棄する場合がある。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

12. 各種申請手続き

委託が必要な場合に、適切なヘルスケア専門家に臨床情報及び家族歴を公開することへの同意書等

13. アドバイスサービスの案内

検査の依頼および検査結果の臨床アドバイスに関する問い合わせ先は、本検査案内の臨床検査部連絡先に問い合わせください。

14. パニック値報告手順

パニック値の設定・・・即刻治療が必要になるような、基準値を大きく外れた値

14.1 血液検査パニック値

14.1.1 血液検査パニック値一覧

	項目	単位	基準値	通知方法	パニック 値下限	パニック 値上限
生化学 検査	Na	mmol/L	138～145	初回のみ	≤120	160≤
	K	mmol/L	3.6～4.8	初回のみ	≤2.5	7≤
	GLU	mg/dL	73～109	随時	≤50	400≤
	AST	U/L	13～30	初回のみ		1000≤
	ALT	U/L	男 10～42	初回のみ		1000≤
			女 7～23			
※カリウムと AST は溶血情報を確認し通知する。						
血液学 検査	WBC	10 ³ /μL	3.3～8.6	初回のみ	≤1.5	20.0≤
	Hb	g/dL	男 13.7～16.8	初回のみ	≤7.0	
			女 11.6～14.8			
	PLT	10 ³ /μL	158～348	初回のみ	≤30	
	PT・sec	秒	12.0～16.0	随時		40≤
	APTT	秒	26.0～30.0	随時		80≤
凝固その他				随時		測定不能

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

14.1.2 血液検査パニック値報告手順

14.1.2.1 日勤帯

- (1) 結果評価担当者は、14.1.1 血液検査パニック値一覧に該当する結果を報告する場合、電話連絡にて依頼医に報告する。依頼医が不在の場合は、診療科部長に報告をする。依頼医および診療科部長も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、別の担当医を探して報告する。外来の患者で担当看護師がない場合は医療秘書に報告し、別の担当医を探して報告する。報告した相手を識別できるよう LIS のコメント欄に職種および氏名を入力する。
- (2) パニック値報告を受けた依頼医は、電子カルテ上に該当患者のパニック値を確認した旨を記載する。

14.1.2.2 夜勤帯

- (1) 結果評価担当者は、14.1.1 血液検査パニック値一覧に該当する結果を報告する場合、電話連絡にて依頼医に報告をする。依頼医が不在の場合は、夜勤・休日日勤等受命者一覧表から参照し、外来は救外担当医、病棟は各診療科当直医に報告する。依頼医および当直医も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、ER リーダーに報告する。報告した相手を識別できるよう LIS のコメント欄に職種および氏名を入力する。臨床検査部パニック値報告手順のフローチャートは添付資料 1 を参照する。
- (2) パニック値報告を受けた依頼医は、電子カルテ上に該当患者のパニック値を確認した旨を記載する。

14.2 微生物検査パニック値

14.2.1 微生物検査パニック値および報告先一覧

14.2.1.1 夜勤帯

検査項目		外来	入院
インフルエンザウイルス 抗原検査	陽性		担当医・病棟看護師
RS ウイルス抗原検査			
コロナウイルス抗原検査		担当医・外来看護師	
抗酸菌塗抹（チールネルゼン）			

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

14.2.1.2 日勤帯

検査項目		外来	入院	
インフルエンザウイルス 抗原検査			担当医・病棟看護師・ ICN	
RS ウイルス抗原検査			担当医・病棟看護師	
便中ロタ・アデノウイルス 抗原検査			担当医・病棟看護師	
コロナウイルス抗原検査		担当医	担当医・病棟看護師・ ICN	
CD トキシン				
抗 酸 菌	塗抹	担当医・ICN	担当医（結核菌群陽性時は ICN も）	
	PCR	担当医（結核菌群陽性時は ICN も）		
	質量分析			
		菌名確定時		
血液培養		陽性	担当医	
耐性菌		検出時	担当医	担当医・病棟看護師
届け出対象菌			担当医（ICN）	

14.2.2 微生物検査パニック値報告手順

(1) 夜勤帯における医師への報告は血液検査パニック値の報告方法に準ずるが、救急外来看護師または病棟看護師にも連絡をする。

(2) 日勤帯で担当医に連絡できない場合は該当する科の部長に連絡するが、部長に連絡できない場合は、AST に登録されている医師に連絡する。

14.3 病理部パニック値報告手順

(1) パニック値の条件

- 初回報告において、臨床診断と病理判断が大きく異なった場合(予想外の場合)。
- 追加報告書において、病理診断が大きく変更された場合。
- 初回報告書において「追加検討中」等の記述がないにも関わらず、依頼医が予期せぬ追加・訂正報告書が提出された場合。
- その他、病理医が「アラートが必要」と判断した場合。

(2) パニック値に該当する場合については、病理医から臨床担当医師（依頼医、主治医）へ、HIS のメール機能を用いて連絡する。

(3) 報告した臨床担当医は病理部 LIS にて識別できる。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

14.4 生理機能検査パニック値

14.4.1 生理機能検査パニック値一覧

生理 機能 検査	(1) 心電図（負荷心電図検査、ホルター心電図検査を含む） a. 心停止 b. wide QRS の頻拍（心室頻拍など） c. 高度な R-R 間隔の延長を認めた場合 d. 高度な徐脈（心拍数 40/分以下） e. Mobitz II 型以上の高度房室ブロック f. 急性心筋梗塞（±2mm 以上の ST 変化） g. 負荷心電図で±2mm 以上の ST 変化 ※自覚症状の有無で、上記以外でも臨床側へ連絡する事もある。 (2) 心臓超音波検査 a. 初回指摘の疣贅 b. 初回指摘の心内血栓 c. 初回指摘の腫瘍 d. 右心負荷（40mmHg 以上+IVC 変動） e. EF 値 30%以下（初回） f. 心嚢水（急性心タンポナーデ） g. 急性期心筋梗塞 h. 乳頭筋断裂 i. 心室中隔穿孔 j. 大動脈解離 k. 高度大動脈弁狭窄（初回） ※自覚症状の有無で、上記以外でも臨床側へ連絡する事もある。 (3) 腹部超音波検査 a. 初回指摘や鑑別診断に上がっていない下記所見。 新規の悪性腫瘍、水腎症、胆嚢炎、（症状あり）、腹部大動脈瘤、膵管拡張（2mm 以上、数珠状拡張）、腹水および胸水の貯留など。 ※上記以外でも臨床側へ連絡する事もある。 (4) 腎臓超音波検査（腎臓内科・泌尿器科） a. 初回指摘や鑑別診断に上がっていない下記所見。 腹水および胸水の貯留、悪性が疑われる腫瘍性病変など。 ※上記以外でも臨床側へ連絡する事もある。 (5) 頸動脈超音波検査 a. 初回指摘の大動脈解離、動脈瘤、不安定プラーク・血栓・腫瘍など (6) 下肢静脈超音波検査 a. 陳旧性を除く深部下肢静脈血栓
----------------	--

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

14.4.2 生理機能検査パニック値の報告

- (1) 14.3.1 生理機能検査パニック値一覧に該当する場合については、オーダーした医師若しくは、担当医師に電話連絡する。
- (2) 報告した相手を識別できるよう生理機能検査 LIS に氏名を入力する。

15. 個人情報の保護に関する検査室の方針

当院の個人情報の保護に関する基本方針に準じる。

16. 検査室の苦情処理手順

検査室への苦情の連絡先は、本、検査案内の臨床検査科連絡先に問い合わせください。
検査室での苦情対応は、「苦情処理手順書（文書番号：QT-品質-006）」に準じ適正に処理する。

17. 関連文書

- (1) 「文書管理手順書（文書番号：QT-品質-001）」
- (2) 「品質指標管理手順書（文書番号：QT-品質-013）」
- (3) 「委託検査管理手順書（文書番号：QT-品質-003）」
- (4) 「検体の搬送および受入手順書（文書番号：QT-採取-003）」
- (5) 「検体の保存および廃棄手順書（文書番号：QT-共通-001）」
- (6) 「検査報告書発行手順書（文書番号：QT-共通-012）」
- (7) 「アドバイスサービス手順書（文書番号：QT-品質-005）」
- (8) 「苦情処理手順書（文書番号：QT-品質-006）」
- (9) 「標準採血法ガイドライン（文書番号：EX-規格-008）」
- (10) 「感染防止対策マニュアル（文書番号：EX 病院-009）」
- (11) 「採血業務手順書（文書番号：SO-採取-001）」

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

(添付資料1)

2020年2月1日

臨床検査部

臨床検査部 パニック値報告手順

< 日 勤 帯 > 臨床検査技師 依頼医 ※依頼医が不在の場合は、診療科部長に報告する。 ※依頼医および診療科部長も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、別の担当医を探して報告する。
< 夜 勤 帯 > 臨床検査技師 依頼医 ※依頼医が不在の場合は、外来は救外担当医、病棟は各診療科当直医に報告する。（夜勤・休日日勤等受命者一覧から参照する） ※依頼医および当直医も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、E R リーダーに報告する。

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

改版/レビュー履歴

版	区分	施行日 (レビュー日)	変更内容	作成	確認/承認
1	作成	2019/4/19	新規作成	森	鈴木ち
2	改訂	2019/10/10	・3.1、3.2、3.3 生化学・免疫血清検査 項目名称の一部修正、生物学的基準範囲・単位の一部変更、所要時間の見直し、血中薬物濃度項目の採取容器変更 ・3.4 血液検査 検査方法の一部修正、生物学的基準範囲・単位の一部変更、所要時間の見直し ・3.5 一般検査 検査方法の一部修正、所要時間の見直し ・3.6 輸血検査 抗 A 抗 B 抗体価の追加、検査方法の一部修正、生物学的基準範囲の一部修正、所要時間の見直し ・3.7 微生物検査 所要時間の基準について追記 ・3.8 病理検査 所要時間の基準について一部変更・追記 ・3.9 生理検査 連絡先の変更、所要時間の見直し、パニック値の見直し ・7.3.1 血液採取：標準採血法ガイドライン (GP4-A3) に準拠 ・16.関連文書：採血マニュアルから採血業務手順書に変更および文書番号追加	森	鈴木ち
3	改訂	2019/12/27	文書のヘッダー、文書のタイトルを変更 前 一次サンプル採取マニュアル(検査案内) 後 検査案内(一次サンプル採取マニュアル) 分野名称の変更 前 生化学 免疫血清検査 血液検査 一般検査 輸血検査 病理検査 生理検査 時間外緊急検査 後 生化学検査 免疫学検査 血液学検査 尿一般検査 輸血部 病理部 生理機能検査 夜勤休日勤務検査業務 3.1.1 RF 検査方法 前 免疫比濁法 後 ラテックス凝集比濁法 3.1.1 追加・修正 GLU 備考 前 ※1 後 ※1※2 エストラジオール備考 前 ※2	森 2019/12/13	鈴木ち 2019/12/16

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			後 ※3		
3	改訂	2019/12/27	3.1.2 追加・修正 前 ※2 薬剤ミフェプリストン（日本で未承認の経口妊娠中絶薬）を服用してから2週間以内の患者において偽高値を示す可能性あり。 後 ※2 採血後、遠心せずに全血放置をした場合1時間あたり3%～5%程の値の低下が見られることから、採血後すみやかに提出すること。 また、解糖作用は全血放置30分後くらいから影響があると言われている。 ※3 薬剤ミフェプリストン（日本で未承認の経口妊娠中絶薬）を服用してから2週間以内の患者において偽高値を示す可能性あり。	森 2019/12/13	鈴木ち 2019/12/16
			3.2.1 生化学検査・免疫学検査（尿・透析液検体）項目一覧 TP（蓄尿）基準範囲 前 0～130 後 30～120 ALB（蓄尿）基準範囲 前 2～20 後 30未満 GLU（蓄尿）基準範囲、単位 前 設定なし 後 40～85mg/day		
			3.3.1 生化学検査・免疫学検査（髄液・胸水・腹水・心嚢水・関節液・CAPD 廃液・BAL 検体）項目一覧 TP（髄液）基準範囲 前 10～40 後 8～48 Cl（髄液）基準範囲 前 100～130 後 120～130 GLU（髄液）基準範囲 前 45～80 後 50～75		
			7.検査を受けるための患者の準備の項を追加 以降の項は繰り下がり 8.3.4 追加 (2)発症後時間の経過とともに病原菌の検出率が低下するため、急性期検体を採取する。 (3)抗菌薬の投与により微生物は死滅するため、抗菌薬投与前に採取する。抗菌薬投与中の場合は、24時間以上投薬を中止して採取するか、中止できない場合は、抗菌薬の血中濃度が最も低い時期に採取する。 (4)常在菌の混入は、起因菌の発育を抑制することがあり、起因菌の判断が困難となるため、検体採取の際は常在菌等の混入を極力避けるよう指導する。 (5)患者の状態を考慮し、安全性の高い採取法を選ぶ。 (6)患者に十分説明し、最良の検体が採れるように協力を求める。 7.3.5.3.2 追加 (1)うがい等で口腔内を清潔にしてから、強く深く咳をして採取する。 (2)ティッシュペーパーを入れず、直接容器に		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			出す。		
3	改訂	2019/12/27	7.3.5.3.3 追加 (1)自然尿は早朝尿・第一は避ける。細胞量が多いが、変性加わることが多いので、随時尿が望ましい。 (2)膀胱尿は検査前にトイレに行かず、尿を溜めておく。	森 2019/12/13	鈴木ち 2019/12/16
			7.3.5.3.3 追加 (1)穿刺採取をする前に、患者の体位を動かして体腔に沈んでいる細胞を浮遊させてから採取を行う。		
			14.2 病理部パニック値報告手順の項を追加以降の項は繰り下がり		
4	改訂	2020/3/23	2.検査室連絡先および業務時間 追加 外注検査の問い合わせについては平日 日常業務時間 8:30～17:00 の対応となります。 駐在員不在時の場合は下記の営業所に直接お問い合わせいただくか、 「SRL総合検査案内(様式番号:EX-外注-001)」および「LSIメディエンス総合検査案内(様式番号:EX-外注-002)」をご参照下さい。 エスアールエル 多摩営業所 042-586-4415 LSIメディエンス 多摩営業所 042-589-2411 表に外注検査受付の連絡先等を記載	森 2020/3/2	鈴木ち 2020/3/5
5	改訂	2020/7/27	目次 追加	森 (2020/7/6)	鈴木ち (2020/7/7)
			3.1.2 検査結果に影響を与えることが知られている要因		
			2.検査室連絡先および業務時間 表 前 電話番号 後 内線番号		
			2.検査室連絡先および業務時間 表 微生物内線番号追加 5223		
			3.2.1 Na,K,Cl 単位 前 mEq/L 後 mmol/L		
			3.3.1 Cl 単位 前 mEq/L 後 mmol/L		
			3.4.1 項目一覧 前 時間外白血球比率 後 時間外血液像(機械値)		
			3.4.1 項目一覧 所要時間 エステラーゼ染色、PAS 染色、鉄染色 前 当日 後 1-2 日		
			3.6.1 削除 CD34 陽性細胞数		
			3.7.1 項目一覧 前 インフルエンザ [®] 抗原 後 インフルエンザ [®] ウイルス抗原		
			3.7.1 削除 ※2 所要時間は検査ラベル出力～結果報告までの時間です。		
			4.夜勤休日日勤検査項目一覧 追加 毛細管ビリルビン		
			4.夜勤休日日勤検査項目一覧 修正 前 時間外白血球比率		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			後 時間外血液像 (機械値)		
5	改訂	2020/7/27	7.検査を受けるための患者の準備 追加 担当医または主治医より、実施される検査に 関して事前にインフォームドコンセントがな され、検体採取に関し同意が得られているこ とが必要である。	森 (2020/7/6)	鈴木ち (2020/7/7)
			7.2.2 (1) a 追加 後 1)検査の同意が得られない患者。 2)検査の協力が得られない患者。		
			7.2.2 (2) a 2) 追加・変更 前 負荷心電図検査での点滴中の患者は留置 針処置後に検査実施を行う。目の不自由な患者 の負荷心電図検査は検査室にご相談いただく。 後 マスター負荷心電図検査、トレッドミル 運動負荷試験での点滴中の患者は留置針処置 後に検査実施を行う。		
			7.2.2 (2) a 3) 追加 後 目の不自由な患者の負荷心電図検査は検査 室にご相談いただく。 (盲目の患者の場合、マスター負荷心電図検 査とトレッドミル運動負荷試験は不可)		
			7.2.2 (2) b 1) 追加 前 歩行負荷試験での歩行やマスター負荷試 験での階段昇降、 後 削除		
			7.2.2 (2) b 2) 削除 前 トレッドミル検査での運動ができない患 者。 後 削除		
			7.2.2 (2) b 追加 電極装着部位に大きな創部などがあり、装着 出来ない患者。 負荷心電図検査の場合は下記となる。 絶対禁忌になる疾患と病態急性心筋梗塞 1)不安定狭心症 2)コントロール不良の不整脈 3)大動脈弁狭窄症 4)急性あるいは重症心不全 5)急性肺塞栓または肺梗塞 6)急性心筋炎または心膜炎 7)解離性大動脈瘤などの重篤な血管病変 相対的禁忌となる疾患と病態 1) 左冠動脈主幹部の狭窄 2) 中等度の狭窄性弁膜症 3) 高度の電解質以上 4) 重症高血圧 (原則として収縮期血圧> 200mmHg、又は拡張期血圧 110mmHg、あ るいはその両方) 5) 頻脈性不整脈または徐脈性不整脈 6) 閉塞性肥大型心筋症などの流出路狭窄 7) 高度房室ブロック 8) 運動負荷が十分に行えない精神的・身体的 障害		
			7.2.2 (4) 追加 後 2)排菌している結核患者。 3)酸素吸入中の患者において、測定中の酸素 吸入停止が難しい場合。 4)鼻腔チューブを挿入している患者。 5) VC が 1500ml 未満の場合、Dlco の測定		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			可能域から外れるため精密呼吸機能検査を中止とする。 6)気管切開をしている患者。		
5	改訂	2020/7/27	7.2.2 (7) a 1) 削除 前 食後 4 時間以上の検査が望ましい。 後 削除	森 (2020/7/6)	鈴木ち (2020/7/7)
			7.2.2 (7) a 追加 後 2)午前に検査を行う場合、食後 8～12 時間以上（前日夜 9 時以降絶食）経過後の検査が望ましい。 3)午後に検査を行う場合、軽食摂取後 4 時間以上経過後の検査が望ましい。 4)検査前 4～6 時間の運動・カフェイン・高脂肪食・ビタミン C・喫煙を避けていただく。 5)血管に作用する薬剤は 4～5 半減期控えていただく（可能ならば）。		
			7.2.2 (7) b 追加 後 1) 安静が保てない患者。 2) 両側ともにカフによる加圧を出来ない患者。		
			7.2.2 (10) a 追加 前 片腕に点滴中、留置針、透析用シャントがある場合、上腕は反対側のみの検査となる。 後 片腕に点滴中、留置針、透析用シャント、フラッシュグルコースモニタリング（FGM）がある場合、上腕は反対側のみの検査となる。		
			8.3.1.1(20) 前 消毒綿またはガーゼで軽く押さえ 後 消毒綿またはガーゼ、綿球で軽く押さえ		
			8.3.1.1(24) 前 ラベルの患者氏名を赤○で囲む 後 ラベルそれぞれに 1 名ずつダブルチェックしたスタッフが赤で記名する。 （例：クロスマッチ採血管 ○○さん、血液型用採血管 △△さん）		
			8.3.1.2.1(3) 追加 時刻は「中央採血室補助箋（様式番号：RE-採取-008）」に記載する。		
			8.3.1.2.2(4) 追加 時刻は「中央採血室補助箋（様式番号：RE-採取-008）」に記載する。		
			8.3.1.2.4 血中薬物(TDM) 追加 採血時刻が必要な項目については、投与直前、投与 1 時間後、投与 2 時間後等、ラベルの指示に従い、採血時刻を「TDM 採血時刻（様式番号：RE-採取-007）」に記入し、コメントラベルを貼付して検査室へ提出する。		
			8.3.2.2(7) 追加 蓄尿時に尿量、身長、体重の申告が必要な検査項目については「尿量等記入用紙（様式番号：RE-採取-006）」に記入し、コメントラベルを貼付して検査室へ提出する。		
			10.2 検体受入不可基準 前 同時採血で赤丸なし 後 同時採血で記名なし		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

5	改訂	2020/7/27	14.1 前 検体検査パニック値 後 血液検査パニック値	森 (2020/7/6)	鈴木ち (2020/7/7)
			14.1.1 血液検査パニック値一覧 前 GLU 500≤ 後 GLU 400≤		
			14.1.2 前 検体検査パニック値の報告 (1)パニック値を超えた検体については、オーダーした医師若しくは、担当医師に電話連絡する。医師に電話が繋がらない場合は、担当看護師もしくは担当クラークに連絡する。 (2)報告した相手を識別できるよう LIS のコメント欄に職種および氏名を入力する。 後 血液検査パニック値報告手順 14.1.2.1 日勤帯 (1)結果評価担当者は、14.1.1 血液検査パニック値一覧に該当する結果を報告する場合、電話連絡にて依頼医に報告する。依頼医が不在の場合は、診療科部長に報告をする。依頼医および診療科部長も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、別の担当医を探して報告する。外来の患者で担当看護師がいない場合は医療秘書に報告し、別の担当医を探して報告する。報告した相手を識別できるよう LIS のコメント欄に職種および氏名を入力する。 (2)パニック値報告を受けた依頼医は、電子カルテ上に該当患者のパニック値を確認した旨を記載する。 14.1.2.2 夜勤帯 (1)結果評価担当者は、14.1.1 血液検査パニック値一覧に該当する結果を報告する場合、電話連絡にて依頼医に報告をする。依頼医が不在の場合は、夜勤・休日日勤等受命者一覧表から参照し、外来は救外担当医、病棟は各診療科当直医に報告する。依頼医および当直医も不在の場合は、一度、担当看護師に報告し、ER リーダーに報告する。報告した相手を識別できるよう LIS のコメント欄に職種および氏名を入力する。臨床検査部パニック値報告手順のフローチャートは添付資料 1 を参照する。 (2)パニック値報告を受けた依頼医は、電子カルテ上に該当患者のパニック値を確認した旨を記載する。		
			14.2 微生物検査パニック値 追加		
			14.4.1 (1) 追加 前 心電図 後 (負荷心電図検査、ホルター心電図検査を含む)		
			14.4.1 (1) a 変更・追加 前 心室頻拍 後 心停止		
			14.4.1 (1) b 変更・追加 前 高度な R-R 間隔の延長を認めた場合 後 wide QRS の頻拍 (心室頻拍など)		
			14.4.1 (1) c 変更・追加 前 高度な徐脈 (心拍数 40/分以下) 後 高度な R-R 間隔の延長を認めた場合		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

5	改訂	2020/7/27	14.4.1 (1) d 変更・追加 前 Mobitz II型以上の高度房室ブロック 後 高度な徐脈（心拍数 40/分以下）	森 (2020/07/06)	鈴木ち (2020/7/7)
			14.4.1 (1) e 変更・追加 前 急性心筋梗塞（±2mm 以上の ST 変化） 後 Mobitz II型以上の高度房室ブロック		
			14.4.1 (1) f 変更・追加 前 マスター負荷心電図で±2mm 以上の ST 変化 後 急性心筋梗塞（±2mm 以上の ST 変化）		
			14.4.1 (1) g 負荷心電図で±2mm 以上の ST 変化 追加		
			14.4.1(2) c 変更・追加 前 右心負荷（40mmHg 以上+IVC 変動） 後 初回指摘の腫瘍		
			14.4.1(2) d 変更・追加 前 EF 値 30%以下（初回） 後 右心負荷（40mmHg 以上+IVC 変動）		
			14.4.1(2) e 変更・追加 前 心嚢水（急性心タンポナーデ） 後 EF 値 30%以下（初回）		
			14.4.1(2) f 変更・追加 前 初回指摘の腫瘍 後 心嚢水（急性心タンポナーデ）		
			14.4.1(2) j 大動脈解離 追加		
			14.4.1(2) a 変更・追加 前 検査後診察なし初回指摘の悪性腫瘍など 後 初回指摘や鑑別診断に上がっていない下記所見。 新規の悪性腫瘍、水腎症、胆嚢炎、（症状あり）、腹部大動脈瘤、膵管拡張（2mm 以上、数珠状拡張）、腹水および胸水の貯留など。		
			14.4.1(4) a 変更・追加 前 検査後診察なし初回指摘の悪性腫瘍など 後 初回指摘や鑑別診断に上がっていない下記所見。 腹水および胸水の貯留、悪性が疑われる腫瘍性病変など。		
			14.4.1(5) 腎動脈超音波検査 a. 腎動脈起始部の閉塞など ※上記以外でも臨床側へ連絡する事もある。削除		
			14.4.1 削除・変更 前 (6) 後 (5)		
			14.4.1 (5) a 大動脈解離、動脈瘤 追加		
			14.4.1 (7) 甲状腺超音波検査 検査後診察なし初回指摘の悪性腫瘍など 削除		
			14.4.1 削除・変更 前 (8) 後 (6)		
			14.4.2 生理機能検査パニック値の報告 (1) 前 パニック値に該当する場合については 後 14.3.1 生理機能検査パニック値一覧に該当する場合については (2)		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

			前 部門システム 後 生理機能検査 LIS		
6	改訂	2020/12/1	目次 変更 前 追加検査の依頼手順 後 追加検査の依頼手順（検体の保存期間、 検体の安定性、保存方法）	森 (2020/11/5)	鈴木ち (2020/11/11)
			3.1.1 生化学検査・免疫学検査（血液検体） 項目一覧 Mg 基準範囲 前 1.9～3.1 後 1.8～2.4 ミオグロビン基準範囲 前 ～65 後 70 以下 B-OSM 単位 前 mOSM/kg 後 mOSM/L ASLO 基準範囲 前 166 以下 後 239 以下 ASLO 単位 前 U/mL 後 IU/mL		
			3.2.1 生化学検査・免疫学検査（尿・透析液 検体）項目一覧 Na（蓄尿）基準範囲 前 設定なし 後 70～250 Na（蓄尿）単位 前 設定なし 後 mmol/L/day K（蓄尿）基準範囲 前 設定なし 後 25～100 K（蓄尿）単位 前 設定なし 後 mmol/L/day Cl（蓄尿）基準範囲 前 設定なし 後 70～250 Cl（蓄尿）単位 前 設定なし 後 mmol/L/day AMY（随時尿）基準範囲 前 設定なし 後 50～500 AMY（随時尿）単位 前 IU/L 後 U/L P-AMY（随時尿）基準範囲 前 設定なし 後 12～425 P-AMY（随時尿）単位 前 IU/L 後 U/L U-OSM 基準範囲 前 800～1300 後 50～1300 U-OSM 単位 前 mOSM/kg 後 mOSM/L		

武蔵野赤十字病院	文書名	文書番号	版数
臨床検査部・輸血部・ 病理部	検 査 案 内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-採取-001	6

6	改訂	2020/12/1	3.9.1 項目一覧 変更 前 乳腺超音波検査 後 乳房超音波検査	森 (2020/11/5)	鈴木ち (2020/11/11)
			7.2.2(10) 追加 前 片腕に点滴中、留置針、透析用シャント、フラッシュグルコースモニタリング (FGM) がある場合、上腕は反対側のみの検査となる。 後 片腕に点滴中、留置針、透析用シャント、フラッシュグルコースモニタリング (FGM)、リブレ、乳房切除がある場合、上腕は反対側のみの検査となる。		
			11.追加検査の依頼手順 変更・追加 前 追加検査の依頼手順 依頼検体が、保存期間内にあり、残量があれば追加検査可能。詳細は、検査室に問い合わせのこと。 後 追加検査の依頼手順 (検体の保存期間、検体の安定性、保存方法) 検査後の検体の保存期間は原則以下の通りです (ただし、土日や連休はこの限りではない)。依頼検体が、保存期間内にあり、残量があれば追加検査可能。検査項目毎に安定性が異なる場合があるため、安定期間を超える場合の追加検査については原則、参考値となります。詳細は、検査室に問い合わせのこと。		
			11.検体保存期間一覧 追加・変更 生化学・免疫学検体保存期間 (血清検体) 前 7日間 後 5日間 生化学・免疫学検体保存期間 (HbA1c) 前 7日間 後 2日間 生化学・免疫学検体保存期間 (NH3、BNP、トロポニン I) 前 7日間 後 1日間 交差適合試験検体 前 設定なし 後 7日間 ホルマリン固定組織 前 3年 後 5年		
			11.検体保存期間一覧 追加 検体の安定性 検体の安定性が保管期間よりも短い項目について追加で検体の安定性の欄を記載		